

敦賀発電所2号炉  
敷地の地形，地質・地質構造  
敷地内のD-1トレンチ内に認められる  
K断層の活動性

補足説明資料2  
D-1トレンチ内における  
K断層の分布に関する  
ボーリング柱状図・コア写真

令和6年3月22日  
日本原子力発電株式会社

余白

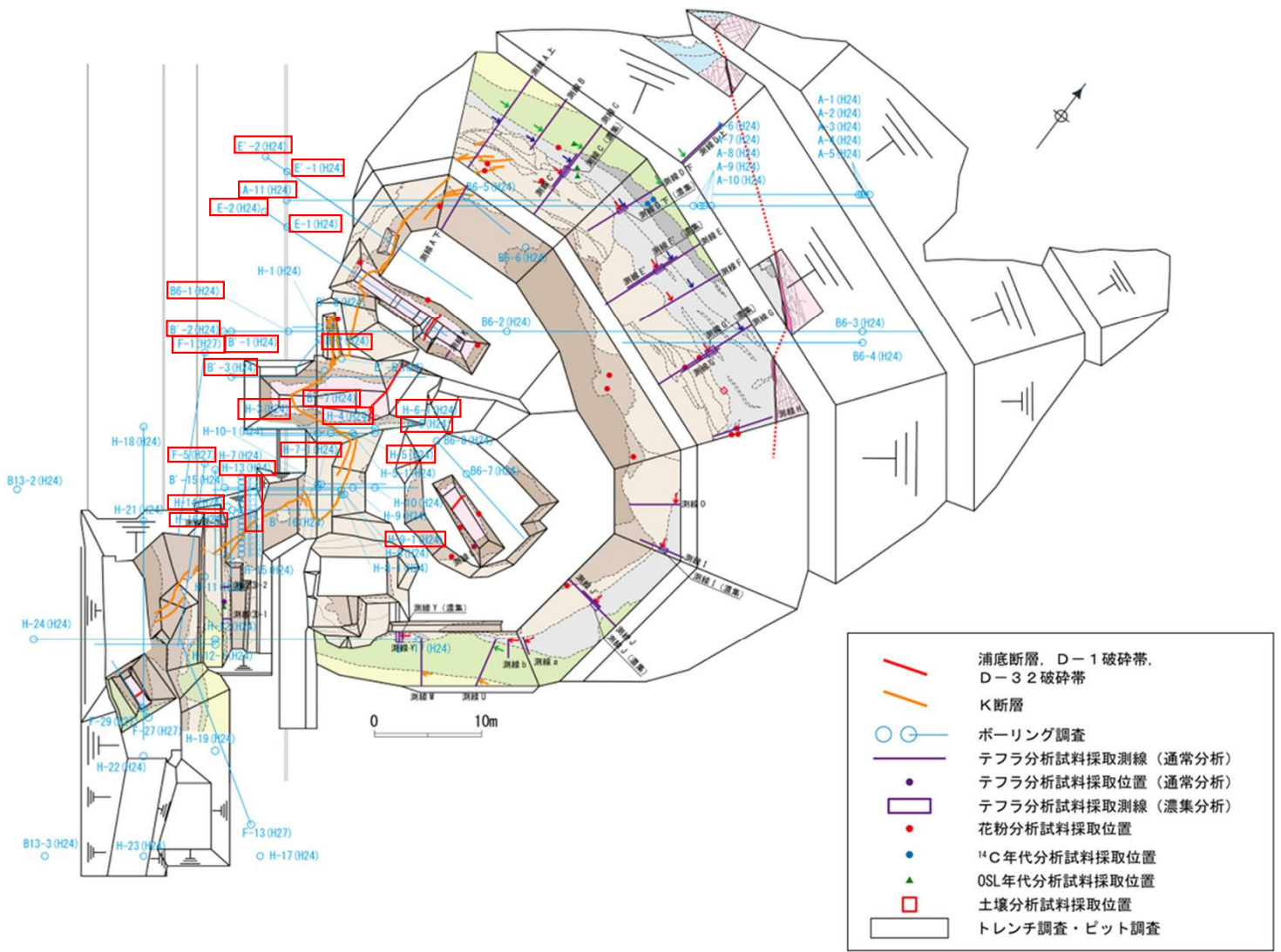
- 本資料は、D-1トレンチで掘削したボーリングのうち、K断層を確認したボーリング孔の計32孔のボーリング孔を対象に取りまとめたものである。
- ボーリング柱状図は、ボーリング掘削後のボーリングコアの肉眼観察のみによる観察結果として取りまとめたものであり、一般社団法人全国地質調査業協会連合会社会基盤情報標準化委員会の「ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取扱い・保管要領(案)・同解説 平成27年6月」に基づき、コア観察カード、コア写真等に基づき作成している。
- 柱状図に記載している断層名は、観察時の所見である。また、深度については、K断層については周辺のカタクレーサイト帯を合わせた範囲の記事にK断層と記載してある。

# 目次

孔名	断面図	頁
H24-E'-2	断面B	9
H24-E'-1	断面B	14
H24-A-11	断面A	19
H24-E-2	断面C	24
H24-E-1	断面C	29
H24-B6-1	断面D	34
H27-F-1	断面I	44
H24-B'-1	断面D	49
H24-B'-2	断面D	54
H24-H-2	断面E	59
H24-B'-7	断面E	62
H24-B'-3	断面E	65
H24-H-6-1	断面F	70
H24-H-3	断面F	73
H24-H-4	断面F	76
H24-H-5	断面F	79

孔名	断面図	頁
H24-H-6	断面F	82
H27-F-5	断面I	85
H24-H-13	断面I	90
H27-G-1	断面I	94
H27-G-2	断面I	97
H24-H-7-1	断面G	100
H27-G-3	断面I	103
H27-G-4	断面I	106
H24-H-9-1	断面G	109
H27-G-5	断面I	112
H27-G-6	断面I	115
H24-H-14	断面I	118
H27-G-7	断面I	121
H27-G-8	断面I	124
H27-G-9	断面I	127
H27-G-10	断面I	130





□: K断層を確認したボーリング孔

D-1トレンチ調査位置図(赤枠:対象ボーリング孔)

■柱状図で用いている記号の凡例を以下に示す。

・岩級区分

割れ目の状態	コア形状	硬軟				
		A <sub>g</sub>	B <sub>g</sub>	C <sub>g</sub>	D <sub>g</sub>	E <sub>g</sub>
a <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	B'	-	-	-	-
	II <sub>g</sub>	B'	C <sub>H</sub> '	-	-	-
	III <sub>g</sub>	-	C <sub>H</sub> '	-	-	-
	IV <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	V <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
b <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	B'	B'	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	II <sub>g</sub>	C <sub>H</sub> '	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	III <sub>g</sub>	C <sub>H</sub> '	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	IV <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	V <sub>g</sub>	-	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	-
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
c <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	-	C <sub>H</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	II <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	III <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	IV <sub>g</sub>	-	C <sub>M</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	V <sub>g</sub>	-	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	C <sub>L</sub> '	D'
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	D'	D'
d <sub>g</sub>	I <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	II <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	III <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	IV <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	V <sub>g</sub>	-	-	-	-	-
	VI <sub>g</sub>	-	-	-	D'	D'

・硬軟

A <sub>g</sub>	極めて硬質。ハンマーで澄んだ金属音がする。
B <sub>g</sub>	硬質。ハンマーで金属音がする。
C <sub>g</sub>	中硬質。ハンマーで多少濁った音がする。
D <sub>g</sub>	軟質。ハンマーで濁音がする。
E <sub>g</sub>	極めて軟質。ハンマーで著しく濁った音がする。

・コア形状

I <sub>g</sub>	50cm以上の長柱状
II <sub>g</sub>	20cm以上50cm未満の長柱状
III <sub>g</sub>	10cm以上20cm未満の柱状
IV <sub>g</sub>	3cm以上10cm未満の岩片状～短柱状
V <sub>g</sub>	1cm以上3cm未満の岩片状
VI <sub>g</sub>	1cm未満の土砂状

・割れ目の状態

a <sub>g</sub>	密着, 新鮮
b <sub>g</sub>	酸化鉄付着
c <sub>g</sub>	細粒物質を挟む。
d <sub>g</sub>	割れ目として認識できない。




・風化

α	非常に新鮮である。造岩鉱物の変質はまったくない。
β	新鮮である。有色鉱物の周辺に赤褐色化がある。長石の変質はない。
γ	弱風化している。有色鉱物の酸化汚染がある。長石の部分的な変質(白色化)がある。
δ	風化している。有色鉱物が黄銅色あるいは周辺が褐色粘土化している。長石の大部分が変質している。
ε	強風化している。石英および一部の長石を除きほとんど変質し原岩組織は失われている。

・変質

1	非変質	肉眼的に変質鉱物の存在が認められないもの。
2	弱変質	原岩組織を完全に残し、変質程度(脱色)が低いもの。あるいは非変質部の割合が高いもの(肉眼で50%以上)。
3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判定できるが、原岩組織を明らかに残し、原岩判定が容易なもの。または、非変質部を残すものおよび網状変質部。
4	強変質	構成鉱物、岩片等が変質鉱物で完全置換され、原岩組織を全く～殆ど残さないもの。

・破砕度区分

区分	模様	詳細
Hc-1		粘土状部。 粘土及びシルトを主体とし、少量の砂及び礫を伴う。粘土化が進み全体に軟質化している。
Hc-2		礫混じり粘土状部。 粘土及びシルトの基質中に礫状ないしレンズ状の岩片を含む。基質及び礫は粘土化が進み軟質化している。
Hb		礫質粘土状部, 粘土質礫状部, 礫質砂状部。 礫を多く含み, 基質は粘土, シルト及び砂からなる。基質は粘土化が進み軟質化しているが, 礫は比較的新鮮で硬い。
Hj		粘土混じり礫状部, 粘土混じり岩片状部, 粘土質岩片状部, 砂混じり岩片状部。 粘土及びシルトを挟む割れ目が発達し, 全体に脆い。岩片は比較的新鮮で硬いものから, やや粘土化が進み指圧で砂状化するものまでである。網目状の粘土細脈が発達することがある。

余白

H24-E'-2

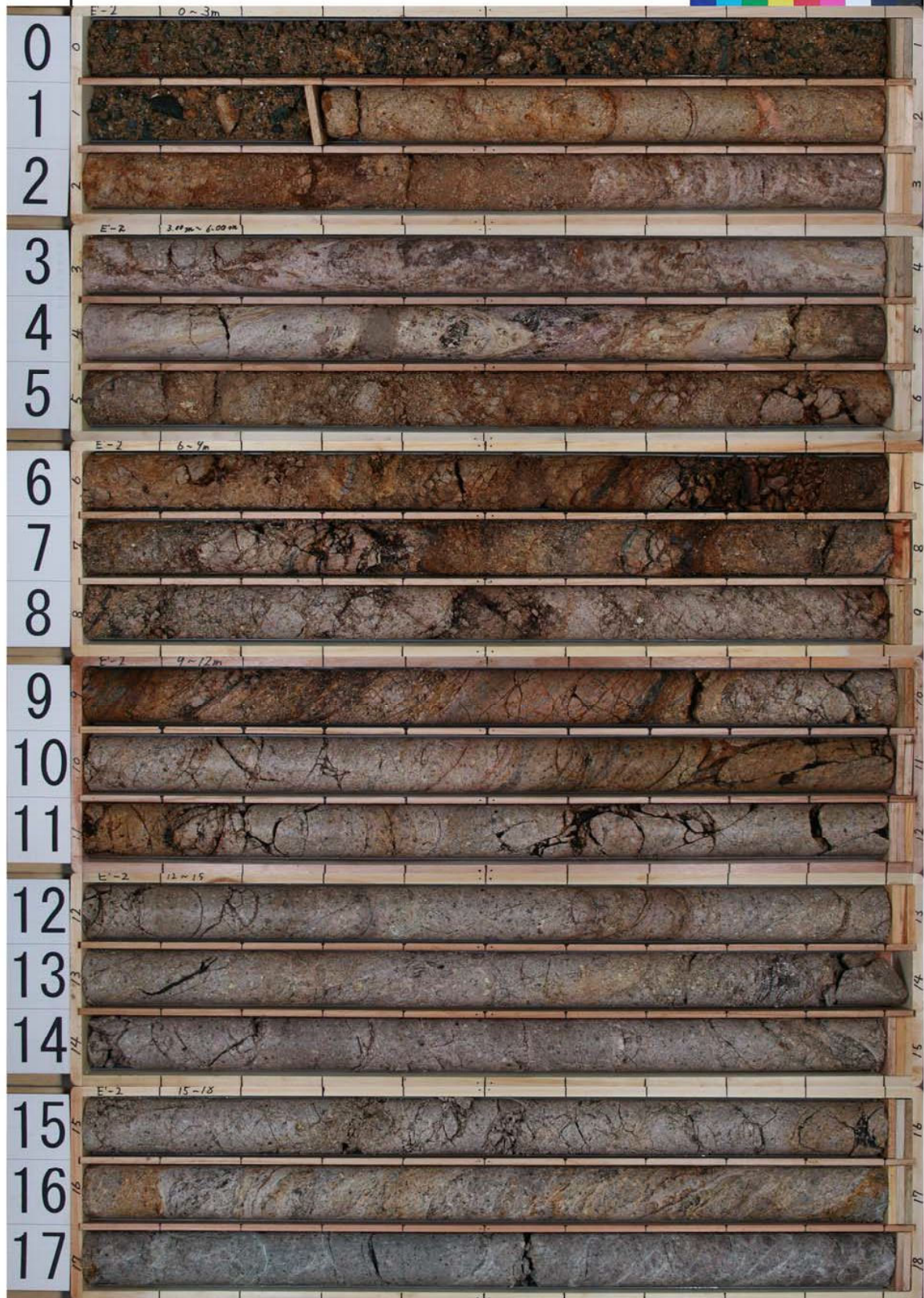


標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定日	標準貫入 ( N 値 ~ 深度 ) 図				原位試験 (孔内水平剪断)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
														0	10	20	30												40	50		
		4.62	27.00	花崗斑岩	灰褐 Dg Vg cg δ	3 4	γ	3	●18.24~19.45m: 破砕部 (K断層) (実質作用による岩盤劣化も見られる) 18.24~18.43m: 粘土・礫混じり砂状破砕部 (Hb) 上端32°, 下端22°。上部 (18.24m付近) は粘土分に富む。下位のHjとの境界は不明瞭。灰褐色を呈する。 18.43~18.86m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 上端22° (不明瞭)、下端64°。一部に原岩の組織が認められる。不規則に灰白粘土を伴う。幅30cm。 18.86~18.87m: 砂混じり粘土状破砕部 (Ho-2) 上下端とも64°。不規則に湾曲するが連続している。オリブ黒色を呈する。幅5~10mm程度。 18.87~19.10m: 礫混じり砂状破砕部 (Hb) 上端64°, 下端61°。下部 (19.10m付近) は幅4mm程度にわたり灰白色粘土に富む。明褐色を呈する。幅10cm程度。 19.10~19.45m: 角礫状破砕部 (Hj) 下端59°で直線的。明赤灰色~暗緑灰色を呈する。幅20cm。 19.45~20.63m: 実質により緑褐色を呈する。土砂~砂礫状を呈する。 ●26.30~27.00m: 破砕部 26.30~26.40m: 粘土質礫状破砕部 (Hj) 上下端48°。幅60~70mm。黄鉄鉱や雲母類を伴う。 26.40~26.41m: 砂混じり粘土状破砕部 (Ho-1) 上下端48°で両端とも波打つ。幅10~15mm。灰色。 26.41~26.48m: 粘土混じり砂状破砕部 (Hb) 下端50°で明瞭。幅50mm程度。下端は実質し緑褐色を呈する。 26.48~26.67m: 健岩部が残る。 26.67~27.00m: 粘土混じり角礫状破砕部 (Hj) 上端56°。黄鉄鉱、雲母類を伴う。	0 50 100 CL					2/8	80		2/9	55	86		2/10	50	1.0	150					泥水15	10	
						緑黒 Dg Vg cg δ	3	γ		3																						
						褐灰 Dg Vg cg δ	2	γ		3																						
						明赤灰 Dg Vg cg δ	3	γ		3																						
						灰褐 Dg Vg cg δ	3	γ		3																						
						緑灰 Dg Vg cg δ	3	γ		3																						



孔番 E' -2 孔

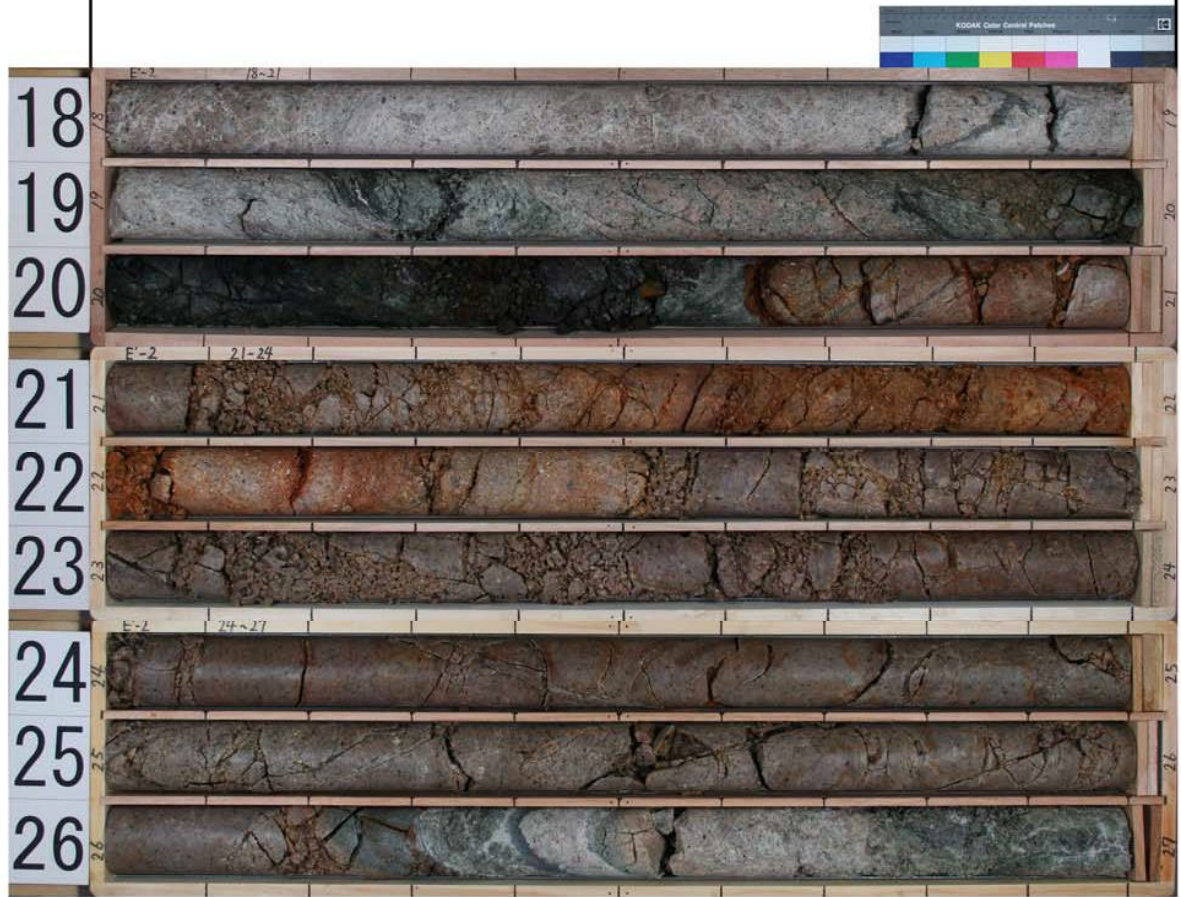
深度 0.00m~18.00m





孔番 E' -2 孔

深度 18.00m ~ 27.00m



H24-E'-1







孔番 E' -1 孔

深度 0.00m~18.00m





孔番 E' -1 孔

深度 18.00m ~ 29.00m



H24-A-11

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.									1
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	---

事業・工事名

ボーリング名	A-11		調査位置	X:397.839, Y:1128.000			北緯	35° 45' 21.10"	
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2013年2月1日 ~ 2013年2月19日		東経	136° 1' 2.74"	
調査業者名		主任技師		現代場人	コ鑑定者		ボーリング責任者		
孔口標高	20.58 m	角	180° 上 90° 方 北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 53.0°	地盤勾配	水平 0°	使用機種	試験機	ハンマー	
総掘削長	35.00 m	度	0° 45.0°	鉛直	0.0°		エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	(標準貫入)試験		室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	送水圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水量 (L/分)										
													N値	(深度)																
1				埋土	褐灰					0.00~1.77m: 構造物及び盛土 0.00~1.50m: コンクリート 1.50~1.77m: 礫混じり粗砂						2/1	40	100	0.1	泥水	10									
2	19.33	1.77		花崗斑岩	明黄褐		dg			1.77~1.95m: 砂礫 (③層) 径10~30mmの花崗斑岩の歪円~歪角礫と締まった砂質土からなる。 1.95~35.00m: 花崗斑岩 (Gp) 1.95~5.50m: 著しく軟化する。 3.32m: 白色粘土存在。傾斜45°、幅20~30mm。薄く赤褐色粘土を伴う。 5.58~10.20m: 傾斜40~70°の割れ目交差する。一部で幅1~5mmの白色粘土が網状に分布し、割れ目沿いの細粒化やマンガン汚染がみられる。 ●10.20~12.76m: 破砕部 (K断層) <スライム含む> 10.20~10.58m: 硬質粘土状破砕部 (Hb) 上下端の境界角度は不明 (上端は礫状コア、下端はスライムのため)。径1~5mmの石英粒と径5~10mmの一部粘土化、一部岩組織が残存する岩片を含む。白~にぶい橙黄色を呈する。幅21cm以上。 10.42~10.58m: スライム 10.58~11.17m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 上端不明 (スライムのため)、下端15°で、直線的でシャープに連続。コア全体が変質により軟化。上位側の10.95mで浅く厚さ1~4mm、傾斜60°~80°の白色軟弱粘土脈が多く分布。にぶい黄橙~灰褐色を呈する。幅約58cm。 11.17m: 粘土状破砕部 (Ho-1) 上、下端15°でいずれも直線的でシャープに連続。径1mm前後の石英粒をわずかに含む。灰褐色を呈する。幅0~5mm。 11.17~11.19m: 礫混じり粘土状破砕部 (Ho-2) 上端15°、下端10~40°で、上端は直線的でシャープ。下端は大きく波打って連続。径1~2mmの石英粒と径5mmの粘土化した岩片を含む。明灰褐色を呈する。幅7~15mm。 11.19~11.66m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 下端35°で波打つ。岩片の軟化は著しい硬さ「E」であるが、割れ目の一部が残存している。灰褐色を呈する。11.44mの55~70°の割れ目は直線的でシャープなせん断性割れ目で、厚さ1~2mmの赤褐色の軟弱粘土脈を挟む。 11.66~11.68m: 硬質粘土状破砕部 (Hb) 上端・下端とも35°で波打って連続。径1~2mmの石英粒と径5~10mmの粘土化した岩片を多く含む。淡黄橙~灰褐色を呈する。幅18~25mm。 11.68~11.78m: 角礫状破砕部 (Hj) 上端35°、下端45°で両者とも波打って連続。径5~10mmの岩片の集合で岩片間は粘土化する。割れ目は分布しない。灰褐色を呈する。幅7cm程度。 11.78~11.81m: 礫混じり粘土状破砕部 (Ho-2) 上端・下端とも45°で波打って連続。径2~3mmの石英粒を含む。淡黄橙~灰白色を呈する。幅20~25mm。 11.81~11.83m: 粘土状破砕部 (Hc-1) 上端・下端とも45°で波打って連続。中央部には厚さ8mmで、下部部がマンガン鉱染を受けた石英脈を含む。淡黄橙~灰白色を呈する。幅10mm程度。																				
3							Eg	Vg	δ								100	ダブルコーナードリット	2.0	100	0.1	泥水	10							
4	19.20	1.95					Eg	Vg	δ								100	ダブルコーナードリット	2.0	100	0.1	泥水	10							
5							Dg	Vg	cg								100	ダブルコーナードリット	1.0	100	0.1	泥水	10							
6							Eg	Vg	γ								100	ダブルコーナードリット	1.0	100	0.1	泥水	10							
7							Dg	Vg	cg								100	ダブルコーナードリット	1.0	100	0.1	泥水	10							
8							Eg	Vg	γ								100	ダブルコーナードリット	1.0	100	0.1	泥水	10							
9							Dg	Vg	cg								100	ダブルコーナードリット	1.0	100	0.1	泥水	10							
10	13.21	10.42					Eg	Vg	cg								100	ダブルコーナードリット	1.0	100	0.1	泥水	10							
11	13.10	10.58					Dg	Vg	cg								100	ダブルコーナードリット	1.0	100	0.1	泥水	10							
12							Eg	Vg	cg								100	ダブルコーナードリット	1.0	100	0.1	泥水	10							
13							Dg	Vg	cg								100	ダブルコーナードリット	1.0	100	0.1	泥水	10							
14							Eg	Vg	cg								100	ダブルコーナードリット	1.0	100	0.1	泥水	10							
15							Dg	Vg	cg								100	ダブルコーナードリット	1.0	100	0.1	泥水	10							
16							Eg	Vg	cg								100	ダブルコーナードリット	1.0	100	0.1	泥水	10							
17							Dg	Vg	cg								100	ダブルコーナードリット	1.0	100	0.1	泥水	10							
18							Eg	Vg	cg								100	ダブルコーナードリット	1.0	100	0.1	泥水	10							
19							Dg	Vg	cg								100	ダブルコーナードリット	1.0	100	0.1	泥水	10							



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準入 ( ) 試験 ( ) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
													N	値													
21			花崗斑岩	明褐灰	Eg	VIg	dg	3	11.83~12.12m: 礫状破砕部 (Hj) 上端45°, 下端60~70°。不明瞭な20°前後の割れ目や低密着割れ目が多い。灰褐色を呈する。	4	D						2/8	90	86	1.0	100	0.1	泥水10	10			
22				灰褐	Eg	VIg	dg	3	(Hb) 上端60~75°, 下端40~60°で両者とも波打ちながら連続。径1~3mm石英粒と粘土化した径5~10mm岩片を多く含む。白色~明赤灰色を呈する。幅20~35mmと膨縮する。	5	D'							2/9	105	86	1.0	100	0.1	泥水10	10		
23				明褐灰にふい	Dg	VIg	cg	3	12.12~12.16m: 礫質粘土状破砕部 (Hj)	6	D'																
24				褐灰	IVg	VIg	cg	2	下端不明瞭。一部で割れ目が残留するが、概ね割れ目は消滅している。20~25°で白~にふい橙~明赤灰色、厚さ1~5mmの軟弱粘土を挟む。	7	CL'																
25				明褐灰	IVg	VIg	cg	2	18.62m: 黄褐色粘土状。傾斜60°、幅3~5mm、周縁約20mmが淡緑色化し、黄鉄鉱が晶出。	8	D'		▽ 25.49						2/10	45	86	1.0	100	0.1	泥水10	0	
26				明褐灰	Eg	VIg	dg	3	●18.80~19.30m: 破砕部	9	D'																
27				灰黄褐	Dg	VIg	cg	3	粘土混り礫状破砕部 (Hj) 上端25°でやや波打ち、下端10°。幅1~3mmの白色粘土を多く含む。	10	D'																
28				明褐灰	Eg	VIg	dg	3	21.20~21.27m: 変質により、灰白~にふい黄褐色。土砂状となる。	11	CL'																
29				にふい橙	Dg	VIg	cg	3	●21.40~21.65m: 破砕部	12	D'		▽ 28.49														
30				にふい黄橙	Eg	VIg	dg	4	21.40~21.61m: 粘土混り礫状破砕部 (Hj) 上端は60°で直線的。下端20°で波打つ。上端に幅1~2mmの明黄褐色粘土を伴う。	13	D'																
31				にふい黄橙	Dg	VIg	cg	3	21.61~21.65m: 礫混り粘土状破砕部 (Hb) 下端55°で直線的。幅30~50mm。にふい橙~灰白色。	14	D'																
32				青灰	Eg	VIg	dg	3	●25.83~26.38m: 破砕部	15	CL'																
33				にふい黄橙	Dg	VIg	cg	3	25.83~26.38m: 礫混り粘土状破砕部 (Hj-2) 上端52°, 下端50°で両端とも直線的。幅20mm、径1~5mmの石英、礫を少量含む。	16	D'																
34				にふい黄橙	Dg	VIg	cg	3	25.86~26.38m: 粘土混り礫状破砕部 (Hj) 上端30°で直線的。径10~20mmの岩片主体で、白色粘土脈が分布する。	17	D'																
		4.17	35.00						27.92m: 58°で幅1~5mm、27.96m: 52°で幅1~3mmのいずれも軟弱な白色粘土脈が膨縮しながら概ね直線的でシャープに連続する。また、両粘土脈から派生した幅0.5~1mmの同質の粘土脈も分布する。	18	D'																
									●29.00~29.35m: 破砕部 (D-I 破砕帯)	19																	
									29.00~29.05m: 粘土状破砕部 (Ho-1) 上端56°, 下端58°で両端とも直線的。幅10~20mm、灰カア7色。	20																	
									29.05~29.15m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 下端62°で概ね直線的。幅55mm、やや硬質。	21																	
									29.15~29.18m: 粘土状破砕部 (Ho-1) 下端68°で直線的。幅10~15mm。暗褐色。石英、細礫を若干含む。	22																	
									29.18~29.35m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 下端65~80°で波打つ。径5mm以下の礫を含む。	23																	
									29.63m, 29.67m: 石英脈。各々幅5mm, 3mm。暗灰色を呈する。	24																	
									31.07m: 傾斜70°で、幅2~3mmの青灰色粘土を挟む。	25																	
									31.07~31.90m: 変質により青灰色化する。一部礫質粘土状を呈する。	26																	
									31.41m: 割れ目の周縁幅20mm程度が褐色化し、下端割の幅5~10mmが径2~5mmに細片化する。	27																	
									34.46m: 傾斜65°で、幅2~4mmの白色粘土を挟む。	28																	

孔番 A-11 孔

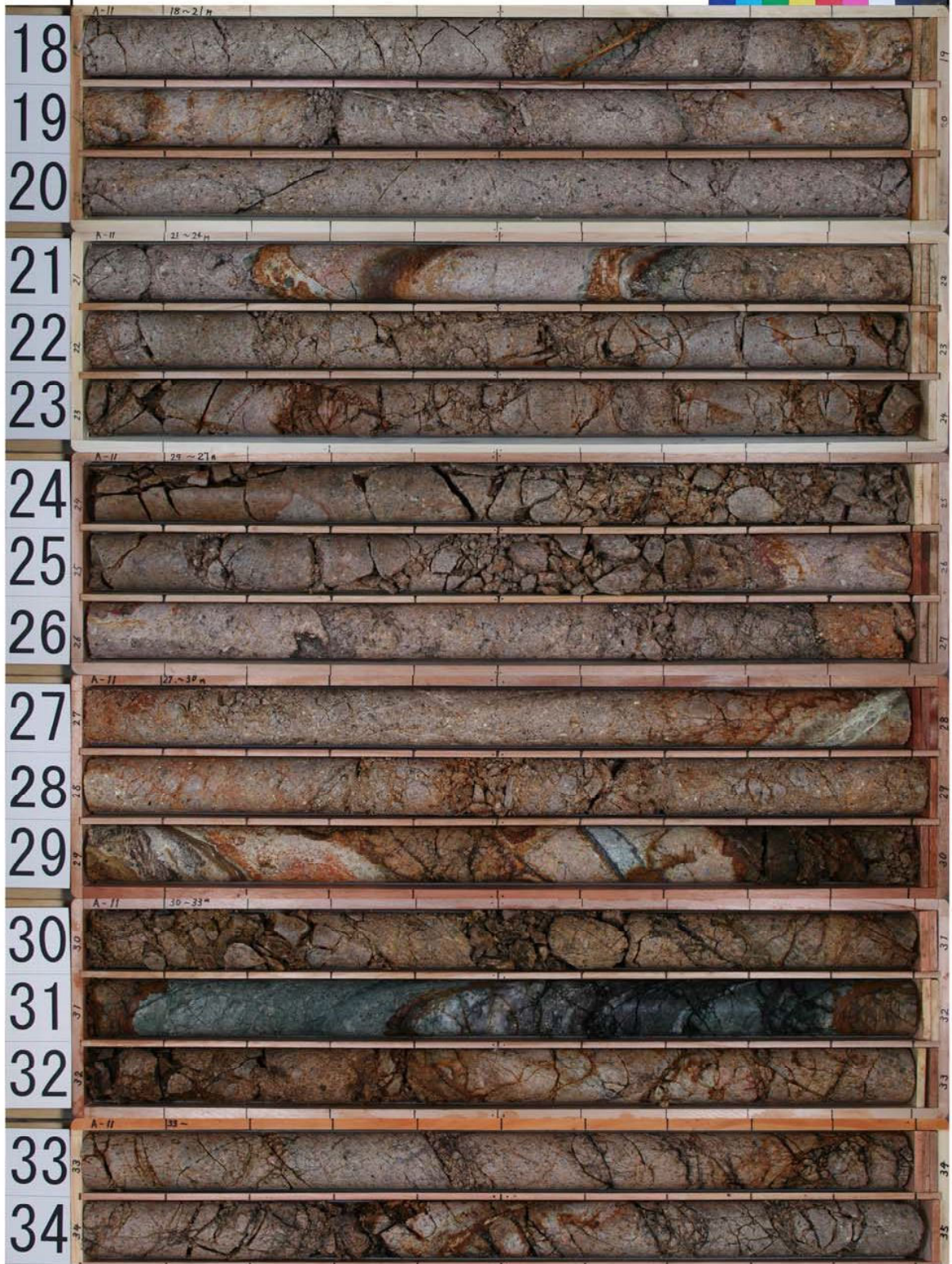
深度 0.00m ~ 18.00m





孔番 A-11 孔

深度 18.00m ~ 35.00m



H24-E-2



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														(N)	(N)														
21	-4.61	27.00	花崗斑岩	明褐灰	Eg	VIg	dg	δ	3	15.82~18.71m: 部分的に著しく軟化し、粘土脈を伴う。 ●18.71~20.27m: 破砕部 18.71~18.73m: 粘土状破砕部 (Ho-1)	0	D'		0				2/28	100		1.5	100	0.1	泥水 10	10				
22					Eg	VIg	dg	δ			上下端70'で直線的でソナー。幅4~5mm。黄褐色。 18.73~18.75m: 粘土質礫状破砕部 (Hb)	0	CL'		10														
23					Eg	VIg	dg	δ			下端15'で不連続。幅15mm。マンガンにより黒色化した岩片を含む。 18.75~18.76m: 粘土状破砕部 (Ho-1)	0	D'		10														
24					Eg	VIg	dg	δ			下端70~80'で湾曲凹凸。幅3~10mm。黄褐色。石英を少量含む。 18.76~18.81m: 礫質粘土状破砕部 (Hb)	0	CL'		10														
25					Eg	VIg	dg	δ			下端70'で湾曲。幅10~20mm。径5mm前後の黒褐色岩片を含む。 18.81~18.86m: 角礫状破砕部 (Hj)	0	CL'		10														
26					灰褐	Bg	IVg	cg	γ	2	下端68'で湾曲。幅30mm。径5~10mmの角礫状。 18.86~19.08m: 礫質粘土状破砕部 (Hb)	0	CM'		10														
				明褐灰	Dg	VIg	δ	3		下端62'で不明瞭。 19.08~20.17m: 粘土混り礫状破砕部 (Hj)		CL'																	
										下端50~75'で不明瞭。白色粘土を網目状に伴う。 20.17~20.27m: 礫質粘土状破砕部 (Hb)																			
										下端45'で直線的。膨縮し。径30mm以下の岩片多い。 ●23.68~23.87m: 破砕部 23.68~23.82m: 礫質粘土状破砕部 (Hb)																			
										下端42'で直線的。径30mm以下の岩片多い。 23.82~23.83m: 粘土状破砕部 (Ho-2)																			
										上端42'。下端40'で直線的。幅10~15mm。 23.83~23.87m: 礫質粘土状破砕部 (Hb)																			
										26.55m: 幅1~2mmの緑灰色粘土を挟む。傾斜60°。																			



孔番 E-2 孔

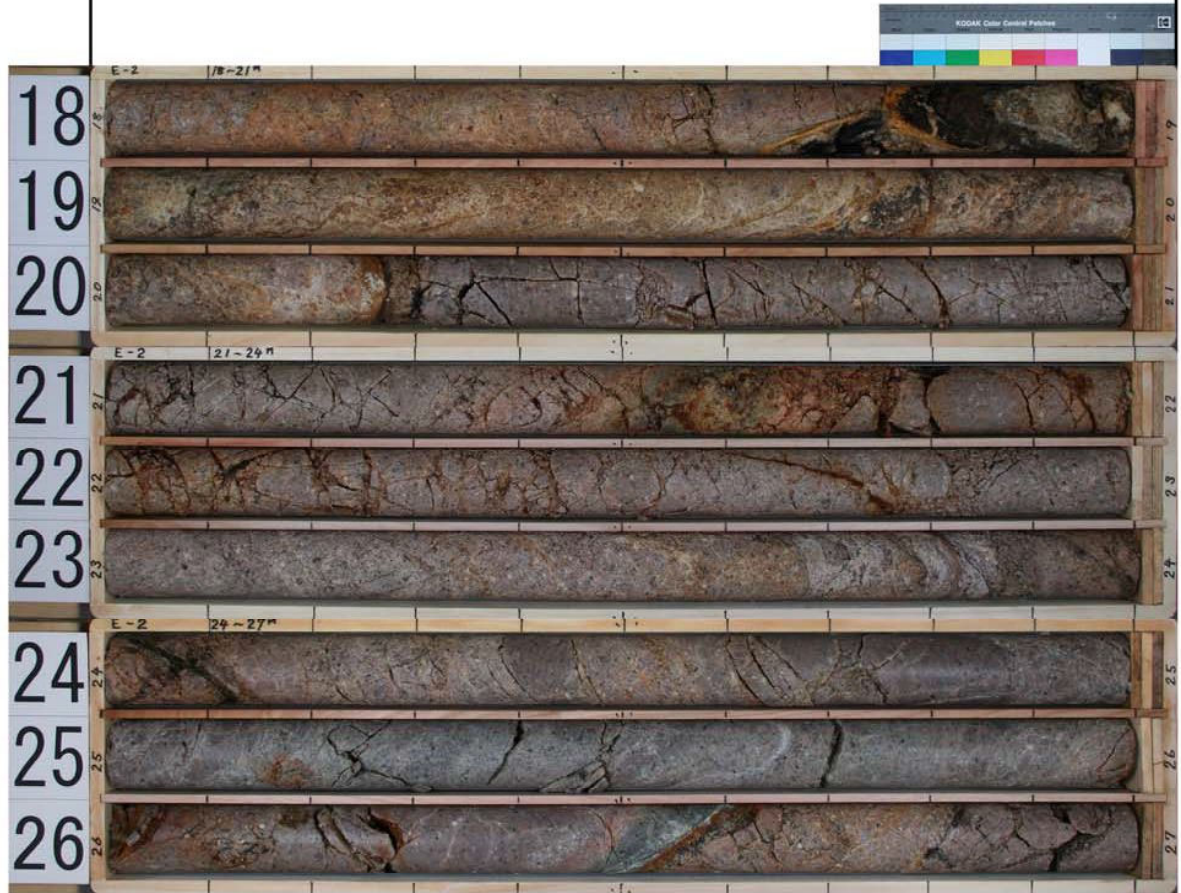
深度 0.00m ~ 18.00m





孔番 E-2 孔

深度 18.00m ~ 27.00m





H24-E-1



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)										
														( N 値 ~ 深度 ) 図	( N 値 )																					
21				花崗斑岩	明褐色	Dg Vg cg	γ	3	2	●16.78~16.80m: 破砕部 粘土状破砕部 (Hc-1) 上端22', 下端20' で両端とも直線的でシヤブ。幅15~20mm。	4 (9)			0 10 20 30 40 50		115			1/22	155	86	1.5	100	0.1	泥水 10	0										
22		17.06~17.10m: 明褐色 灰粘土挟在。傾斜10~15'。幅35~40mm。 19.84m: 黄褐色粘土挟在。傾斜35' で直線的。幅2~10mm。								4 (9)																										
23																●20.00~20.44m: 破砕部 (D-1破砕部) 20.00~20.02m: 礫混り粘土状破砕部 (Hc-1) 上下端15'。幅10mm。にふい黄橙色。上端は直線的でシヤブ。下端はやや波打つ。 20.02~20.24m: 粘土混り礫状破砕部 (Hj) 下端43' で湾曲。幅2~5mmの白色粘土が網状に分布。 20.24~20.32m: 礫質粘土状破砕部 (Hh) 下端50' で直線的でシヤブ。幅60~70mm。 20.32~20.34m: 粘土状破砕部 (Hc-1) 下端52' で直線的。幅15~20mm。暗褐色、にふい黄橙色を呈する。 20.34~20.44m: 粘土混り礫状破砕部 (Hj) 下端35' で直線的。 23.50~23.74m: 変質により、緑灰色を呈する。	4 (9)																			
24	3.04	25.00										にふい黄緑																								

孔番 E-1 孔

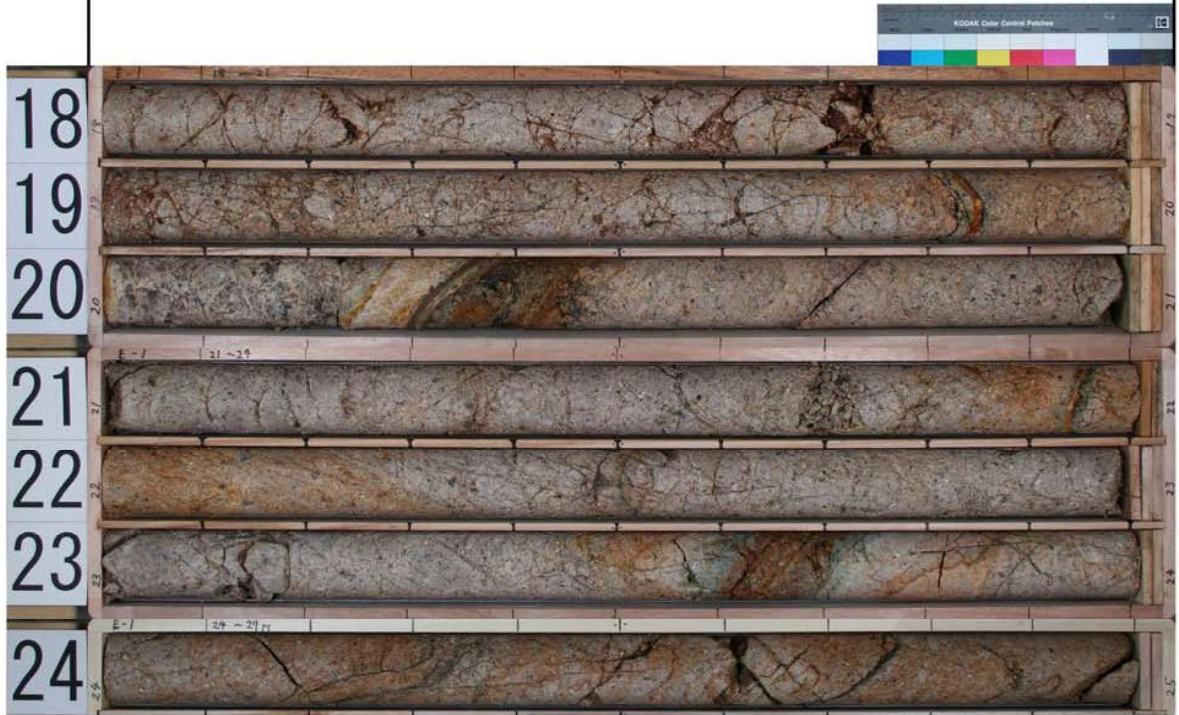
深度 0.00m ~ 18.00m





孔番 E-1 孔

深度 18.00m ~ 25.00m



H24-B6-1



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風変質	記事	コア採取率 ( % ) 最大コア長 cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 ( m ) 測定月日	標準貫入 ( N 値 ~ 深度 ) 図		原位置試験 ( 孔内水平距離 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 ( cm / 時 )	孔径 ( mm ) ／孔壁保護	コアチップ / ピット	給転数 ( rpm )	送水圧 ( MPa )	送水量 ( L / 分 )	排水量 ( L / 分 )	
														( N )	( 値 )											
26					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	24.98m: 褐色に酸化した部分 ( 幅2.0mm ) が帯状に分布する。傾斜は50°程度である。	9 (0)	CL'						110								
27					灰褐	Dg Vg	cg	2	δ	27.14~27.35m: 割れ目が密集し、マンガン脈と砂状部を挟む。	8 (0)	D'					6/23					0.1	泥水1	1		
28					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	27.85~28.26m: 網目状に黄灰色の細粒部を挟む。	6 (0)							90								
29					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	31.15m: 傾斜55°, 幅2~3mmのマンガン脈を挟む。	6 (0)							100				0.1	泥水1	0		
30					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	34.00~34.14m: コアの表面は粗く、やや軟質である。	6 (0)						6/24									
31					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	35.08~35.57m: 割れ目が網目状 ( 1~3cm間隔 ) に分布する。コアはやや軟質である。	6 (0)							80								
32					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	38.35~38.40m: 破砕部	6 (0)							120				0.1	泥水1	1		
33					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	●38.35~38.40m: 破砕部	5 (0)							86				120				
34					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	破砕幅は3.5cmである。	5 (0)															
35					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	38.35~38.39m: 礫混じり粘土状破砕部 ( Ho-2 )	5 (0)															
36					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	上端45°で直線的。淡赤褐色。	5 (0)															
37					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	38.39~38.40m: 粘土状破砕部 ( Ho-1 )	5 (0)															
38					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	下端60°で凹凸。幅3mm。軟質である。オリーブ灰色。	5 (0)															
39					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	39.11~40.00m: 割れ目が網目状を呈して密に発達する。	5 (0)															
40					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	39.40~39.65m: マンガン脈を挟む。	5 (0)															
41					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	40.73~41.68m: 所々割れ目が網目状に分布する。基質は砂状を呈する。	5 (0)															
42					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	43.16~44.09m: 割れ目が網目状に分布する。傾斜60°程度の割れ目にマンガン脈と黄褐色砂状部を挟む。所々礫状を呈する。全体に緻密である。	5 (0)															
43					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	44.73~45.01m: 傾斜55~80°の割れ目が1~3cm間隔で発達する。割れ目沿いは角礫状を呈する。	5 (0)															
44					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	45.01~45.87m: 網目状に割れ目が発達する。	5 (0)															
45					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	45.87~46.33m: 割れ目が1~3cm間隔で発達する。割れ目沿いは角礫状を呈する。	5 (0)															
46					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	46.33~46.47m: 粘土混じり礫状を呈する。上端部には幅20~30mmの礫混じりマンガン脈。下端部には幅0~4mmの黄緑色粘土を伴う。上端境界は傾斜55°, 下端境界は傾斜40°である。	5 (0)															
47					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	46.47~46.83m: 割れ目が網目状に発達する。やや軟質している。	5 (0)															
48					明褐灰	Dg Vg	cg	2	δ	49.82~49.90m: 傾斜60°程度の割れ目が密集し、一部礫状を呈する。	5 (0)															



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (試験) (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																
															N	値																																											
51			花崗斑岩	灰褐	Cg	IVg	IVg	γ	2		51.30m: 割れ目が密集する。コアはやや脆い。	0-100	CL'	▽ 51.05 6/26	0	10			6/26	100			40.0	120																																			
52																																																											
53																																				53.65~53.73m: 傾斜30~45°の割れ目が0.1~2cm間隔で発達する。コアは脆い。																							
54																																				54.05~54.85m: 割れ目が網目状に発達する。																							
55																													にぶい黄褐							54.04~54.66m: 礫混じりシルト状 (幅20~30mm) を呈する。上端境界の傾斜は45°。下端境界の傾斜は60°程度である。																							
56																																				55.67~55.85m: 高角度の割れ目 (傾斜60°程度) 沿いは脆弱である。																							
57																													にぶい橙							56.20~56.38m: 割れ目が密集している。																							
58																																				57.75~58.10m: コアの表面は粗く、軟質である。																							
59																													明黄褐							58.00~58.10m: 粘土混じり礫状 (幅10cm程度) を呈する。下端境界面の傾斜は60°程度である。																							
60																													にぶい黄緑							58.41~58.52m: コアは褐色に変色しており、やや脆い。																							
61																													明黄緑							59.09~59.59m: 黄白色を呈する粘土脈 (幅1~3mm) が網目状に分布する。																							
62																													明褐灰							60.45~60.87m: 割れ目が密集し、砂礫状を呈する。																							
63																													褐灰							61.36~61.58m: コアは割れ目に沿って褐色に変色している。																							
64																													にぶい黄緑							●62.50~62.66m: 破砕部 62.50~62.53m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 上端不明瞭。 62.53m: 粘土状破砕部 (Hc-1) 傾斜65°でほぼ直線的。幅2mmの赤灰色粘土。 62.53~62.66m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 下端傾斜50°~90°で湾曲。																							
65																													橙							63.78~63.79m: 粘土脈 上下端不明瞭。熱水変質部。 64.13~64.56m: 割れ目沿って褐色に変色している。 64.50m: 礫混じり粘土 (幅2~8mm) を挟む。傾斜75°~85°。																							
66																													にぶい橙							67.13~67.35m: コアの表面は褐色を帯びる。																							
67																																				67.63~67.91m: 全体的に変質しており、所々軟質な部分を含む。																							
68																													明褐灰																														
69																													灰褐																														
70																													にぶい褐							71.09~71.57m: 傾斜20~40°と傾斜70°程度の割れ目が交わりながら発達しており、割れ目の交差部の一部は脆弱である。																							
71																																				●71.87~73.91m: 破砕部 (浦底断層) 71.87~73.72m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 上端15°で直線的。下端不明瞭。 73.72~73.79m: 礫混じり粘土状破砕部 (Hc-2) 上端不明瞭。淡黄褐色。 73.79~73.80m: 粘土状破砕部 (Hc-1) 上下端45°。上端は波打つ。下端はほぼ直線的。幅10mm。淡黄灰色。 73.80~73.91m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 下端不明瞭。																							
72																													褐灰							74.88~75.21m: 黄灰色のシルト状挟在物 (幅2~8mm) が分布する。シルト状挟在物の傾斜は45~60°程度である。																							
73																													浅黄																														
74																																																											

標尺	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																		
															(N値~深度) 図																																																	
															0 10 20 30 40 50																																																	
76			花崗斑岩	浅黄	Dg	IVg	Cg			2	75.75~76.30m: コアの表面は粗く、やや軟質である。	9 (9)	CL'																																																			
		Cg			IVg	Cg		3	12 (12)																																																							
77		Dg			Vg	Dg			17 (17)																																																							
78					Cg	IVg	Cg		2	7 (7)		77.42~77.71m: 割れ目に沿って細片状を呈する。																																																				
					Dg	Vg	Cg					78.75~78.84m: 熱水変質部粘土筋が網目状に分布する。上下端の傾斜が異なる。岩片の定向配列は見られない。																																																				
79					Cg	IVg	Cg		2	18 (18)																																																						
					Dg	Vg	Dg		3	5 (5)																																																						
80																																																																
		36.69			81.00																																																											

孔番 B6-1 孔

深度 0.00m~18.00m





孔番 B6-1 孔

深度 18.00m ~ 36.00m





孔番 B6-1 孔

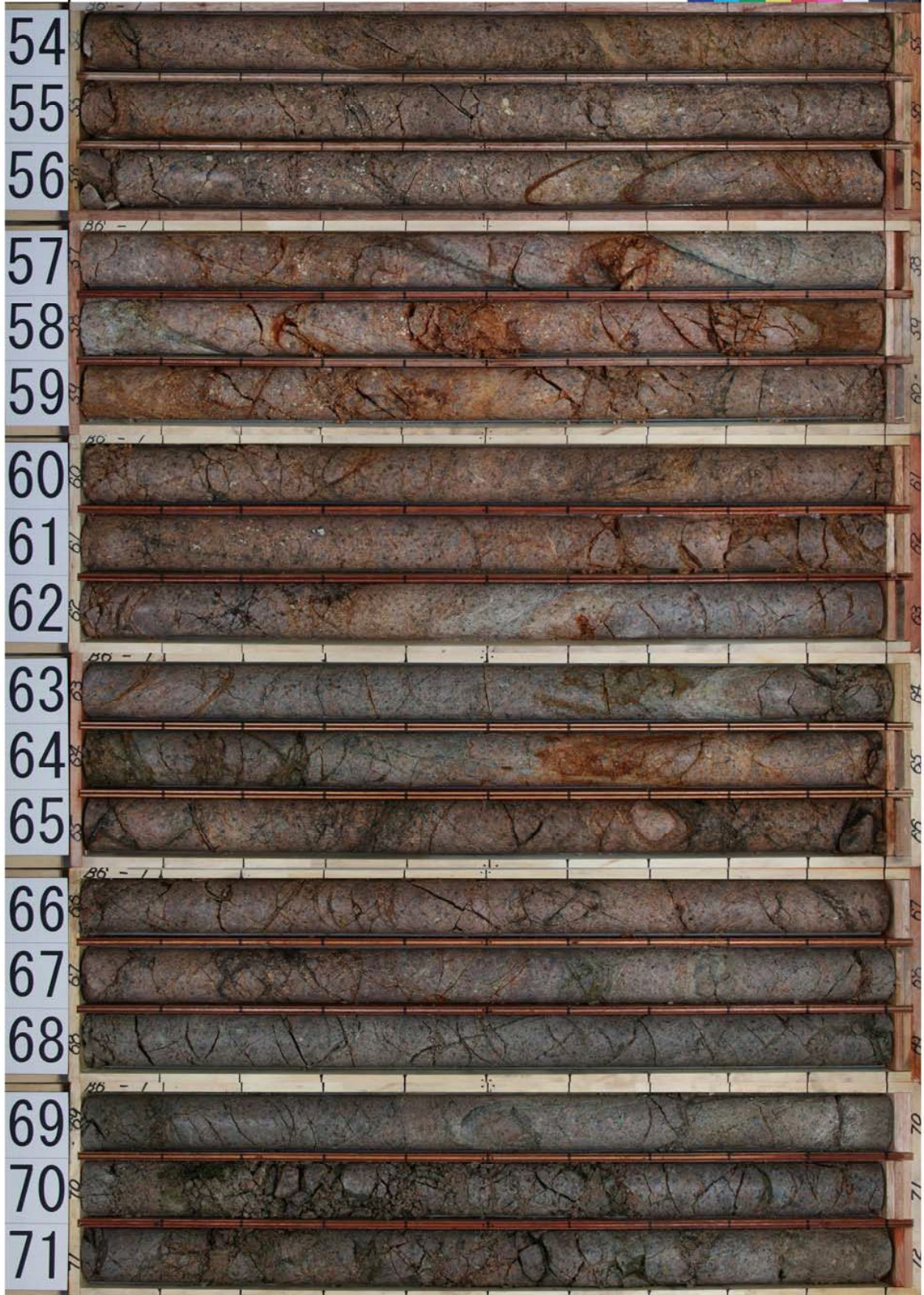
深度 36.00m ~ 54.00m





孔番 B6-1 孔

深度 54.00m ~ 72.00m





孔番 B6-1 孔

深度 72.00m ~ 81.00m



H27-F-1





標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ペット	給 回 送 水 量 (MPa)	送 水 圧 (MPa)	排水 量 (L/分)	排水 量 (L/分)									
															( N 値 ~ 深度 )	図																			
															0 10 20 30 40 50																				
21				灰黄褐							<p>●20.29~20.88m: 破砕部 20.29~20.31m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 上端はシャープで直線的で17°。下端は湾曲~波打って30~45°で連続。土砂状~粘土化し著しく軟化。白色粘土脈が多く分布。上端のせん断面はゆる割れ目や風化割れ目を切っている(変位量不明)。にぶい黄褐色を呈する。幅15~30mm。 20.31~20.34m: 礫混じり粘土状破砕部 (Hc-2) 上端は湾曲~波打って30~45°。下端は波打って45°で連続。径2~3mmの石英粒を10%程度含む。一部で風化により褐色化する。灰白~黄褐色を呈する。幅20~25mm。 20.34~20.35m: 粘土状破砕部 (Hc-1) 上端は波打って45°。下端は45°で直線的に連続。石英粒。岩片はほとんど含まない。にぶい黄褐色を呈する。幅2mm。 20.35~20.88m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 上端45°。下端65°でいずれも直線的に連続。径5~10mmの粘土化した花崗斑岩岩片と幅1~5mmの白色の軟質な脈状~レンズ状の粘土からなる。岩組織は残留するが、割れ目は消滅するものが多い。灰~にぶい黄褐色を呈する。 20.88m: 粘土状破砕部 (Hc-1) 上端65°。下端68°でいずれも直線的に連続。径1~2mm石英粒を2~3%とわずかに含む。灰白色を呈する。幅1~7mm。 ●21.20~22.92m: 破砕部 21.20~22.92m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 明褐色~にぶい橙色を呈する。全体にやや軟質~硬質。上端50°でやや不明瞭。下端68°で明瞭。21.20~22.35m間は、径30mm以下の岩片とその間を充填する灰白~赤灰色粘土からなり、マンガン汚染を伴う。一部に引きずり構造やせん断面が見られる。22.06mには傾斜90°で幅1~3mmの灰黄褐色粘土を不連続に伴い、その周辺は灰白色粘土化が著しい。22.35~22.72m間は灰白色粘土を伴う微細な割れ目が発達しているが、原岩組織は残る。上端には傾斜50~80°で湾曲した幅1~2mmのにぶい橙色の軟質な粘土を伴う。22.72~22.92m間は全体に硬質。灰白色~赤灰色粘土が網目状に分布する。 22.92~22.93m: 硬質粘土状破砕部 (Hb) 明褐色のやや軟質な硬質粘土状部からなる。下端境界の傾斜は68°である。 22.93m: 粘土状破砕部 (Hc-1) にぶい黄褐色を呈する。軟質な粘土状部からなり、幅は0.5cmである。下端境界の傾斜は68°である。 22.93~22.99m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 明褐色のやや軟質な硬質部からなる。下端境界の傾斜は57°である。 ●24.95~25.78m: 破砕部 24.95~25.08m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) にぶい黄褐色のやや軟質な礫状部からなる。上端境界の傾斜は58°である。 25.08m: 硬質粘土状破砕部 (Hb) 灰白色を呈する。軟質な粘土状部からなり、幅は0.6cmである。傾斜は58°である。 25.08~25.45m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 明黄褐色の硬質な礫状部からなる。下端境界の傾斜は34°である。 25.45m: 粘土状破砕部 (Hc-1) にぶい黄褐色を呈する。軟質な粘土で、幅は0.6cmである。下端境界の傾斜は30°である。 25.45~25.50m: 硬質粘土状破砕部 (Hb) 上端34°。下端41°で波打って連続する。幅60mm。にぶい黄褐色~にぶい赤褐色。 25.50~25.78m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 上端41°。下端68°で波打つ。岩片を主体とし、岩片間に幅1~2mmの白色粘土を伴う。</p>																								
22					明褐色																														
23					明褐色																														
24					明黄褐																														
25																																			

孔番 : F-1

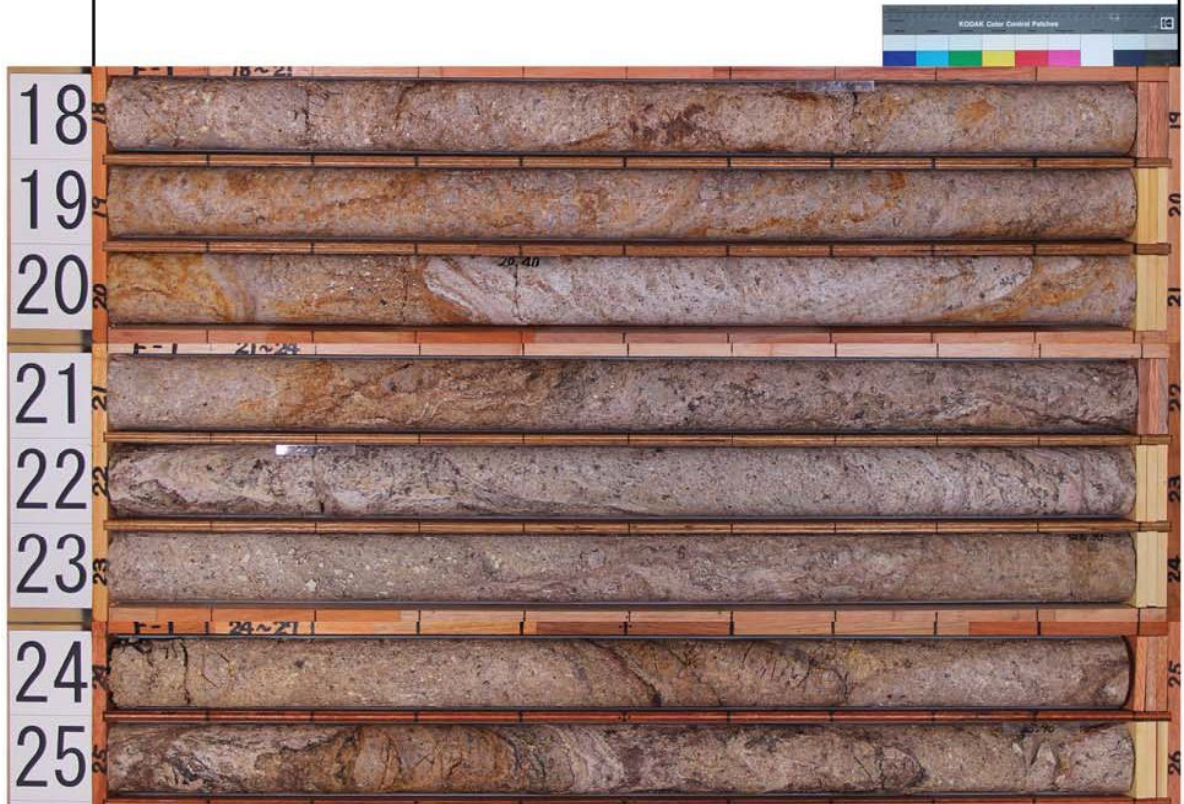
深度 0.00m~18.00m





孔番 : F-1

深度 18.00m ~ 26.00m



H24-B'-1

### ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.											1
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

事業・工事名

ボーリング名	B'-1	調査位置	X:392.852 , Y:1116.097	北緯	35° 45' 20.69"
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	2013年1月9日 ~ 2013年1月25日	東経	136° 1' 2.86"
調査業者名		主任技師		現場人	
コ定	ア			コ鑑定	ア
ハンマー					
ポンプ					
試験機					
エンジン					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬度	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 (%)		岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					掘進速度 (cm/時)	掘進月日	室内試験	原位置試験 (孔内水平載重)																								
												最大コア長 (cm)	RQD [%]			(N値 ~ 深度) 図	送水量 (L/分)	送水圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)					コアシューブ/ビット																							
1				埋土	にぶい黄						0.00~2.48m: 埋土及び構築物 0.00~2.05m: 細礫混じりシルト質砂 埋土。砂は細~中砂。径2~10mmの細礫を含む。礫種は多様。 2.05~2.28m: コンクリート (擁壁) 2.28~2.48m: 砕石 径5~30mm, 最大径180mmの安山岩の岩片からなる。																																					
2	18.14	2.48		砂礫	明褐色						2.48~3.43m: 砂礫 (③層) 礫は径2~30mm, 最大径200mmの垂角~垂円礫。基質は細~細砂。礫率60%。																																					
3	17.46	3.43		明黄褐	明褐色						3.43~25.00m: 花崗斑岩 (Gp) 斑晶は径2~5mmの石英、長石。 3.43~4.81m: 風化部で土砂~岩片状を呈する。岩組織は一部残留し、褐色化した割れ目が残存する。 4.81~7.50m: 風化により土砂状に崩せることが多い。傾斜10~40°と傾斜50~70°の割れ目が多く認められる。 ●7.50~10.93m: 破砕部 (K断層) 7.50~7.90m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 上端傾斜不明, 下端45°。径2~20mmの岩片が多いが、岩組織はほぼ消滅している。岩片間を縫うように幅1~3mmの白色粘土脈が分布する。7.70m以深ではマンガン鉱染が著しい。明黄褐~黒褐色を呈する。幅28cm。																																					
4				明黄褐	明褐色						7.90~7.91m: 粘土状破砕部 (Hc-1) 上端45°, 下端45°。径1mm前後の石英粒が点在する。にぶい黄褐色を呈する。幅6~10mm。																																					
5				明黄褐	明褐色						7.91~9.48m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 上端45°, 下端71°。径10~20mmの岩片主体で、岩組織はほぼ消滅している。岩片間を縫うように白色~淡褐色~暗褐色の粘土脈が幅1~3mmで分布する。8.46mに58°の消滅しかかっている褐色風化割れ目が残存し、割れ目周辺の2~30mm間に径0.5mmの微小針状鉄鉱が晶出している。9.30m以深に、径1~5mmのマンガン粒が点在する。淡黄褐~明黄褐~にぶい黄褐色を呈する。幅56~110cm。																																					
6				明黄褐	明褐色						9.48~9.58m: 礫混じり粘土状破砕部 (Hc-2) 上端70°, 下端60°。白~淡黄褐色軟弱粘土と、岩組織が消滅した径5~10mmの花崗斑岩岩片2%程度含む。岩片も粘土化し軟弱上下端は幅1~5mmで風化により褐色化する。淡黄褐色を呈する。幅35~80mm。																																					
7				明黄褐	明褐色						9.58~10.93m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 上端60°, 下端70°。10.36~10.38m スライム (コアの供回りによるもの)。10.43~10.61mに岩組織明瞭で割れ目も残留する花崗斑岩が中石として分布する以外は、ほぼ岩組織と割れ目が消滅した岩片と岩片間の粘土化部からなる。10.61m以深では、60°前後の風化褐色割れ目の一部が残存している。10.93m。幅1~2mmで70°で浅~深打つ褐色粘土が分布する (コア全区間に連続しない)。にぶい黄褐~明黄褐色を呈する。幅51~67cm。																																					
8	12.56	10.36		明黄褐	明褐色						10.93~11.93m: 傾斜10~40°の割れ目主体で、白色粘土を伴う。																																					
9	12.55	10.38		明黄褐	明褐色																																											
10				明黄褐	明褐色																																											
11				明黄褐	明褐色																																											

標尺	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																				
																(N値~深度) 図	(N値)	(N値)	(N値)	(N値)																																														
13	2.21	25.00		明褐灰	Eg	VIg	dg	δ	3	●12.10~12.20m: 破砕部 礫質粘土状破砕部 (Hb) 上端45°, 下端60°。明褐灰色。上下端境界は凹凸がある。 12.20~16.31m: 土砂状~岩片状を呈する。 13.52~13.70m: 黄褐色粘土脈がほぼ平行に分布。傾斜55~65°, 幅1~10mm。  16.71~21.11m: 土砂状を呈する。径10~20mmの岩片と砂状~粘土化した差異からなる。	2	100	D'																																																					
14				明黄褐	Eg	VIg	dg																																	2	100																									
15					明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	2		2																											100																											
16						Eg	VIg	dg																															2	100																										
17					に お い い 黄 褐	Dg	Vg	cg	δ	3		2																											100																											
18						Eg	VIg	dg																																2	100																									
19					明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	3		2																											100																											
20						Eg	VIg	dg																																2	100																									
21					明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	4		1																											100																											
22						Eg	VIg	dg																																1	100																									
23					明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	3		2																											100																											
24						Eg	VIg	dg																																2	100																									



孔番 B' -1 孔

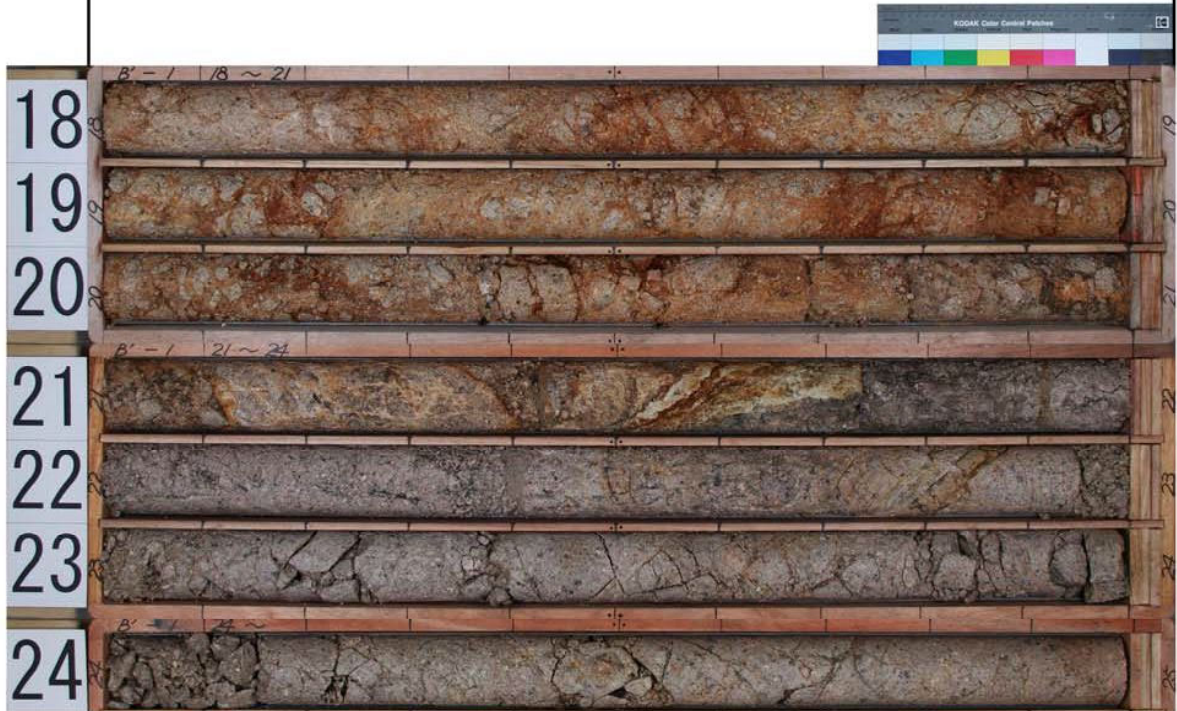
深度 0.00m~18.00m





孔番 B' -1 孔

深度 18.00m ~ 25.00m



H24-B'-2

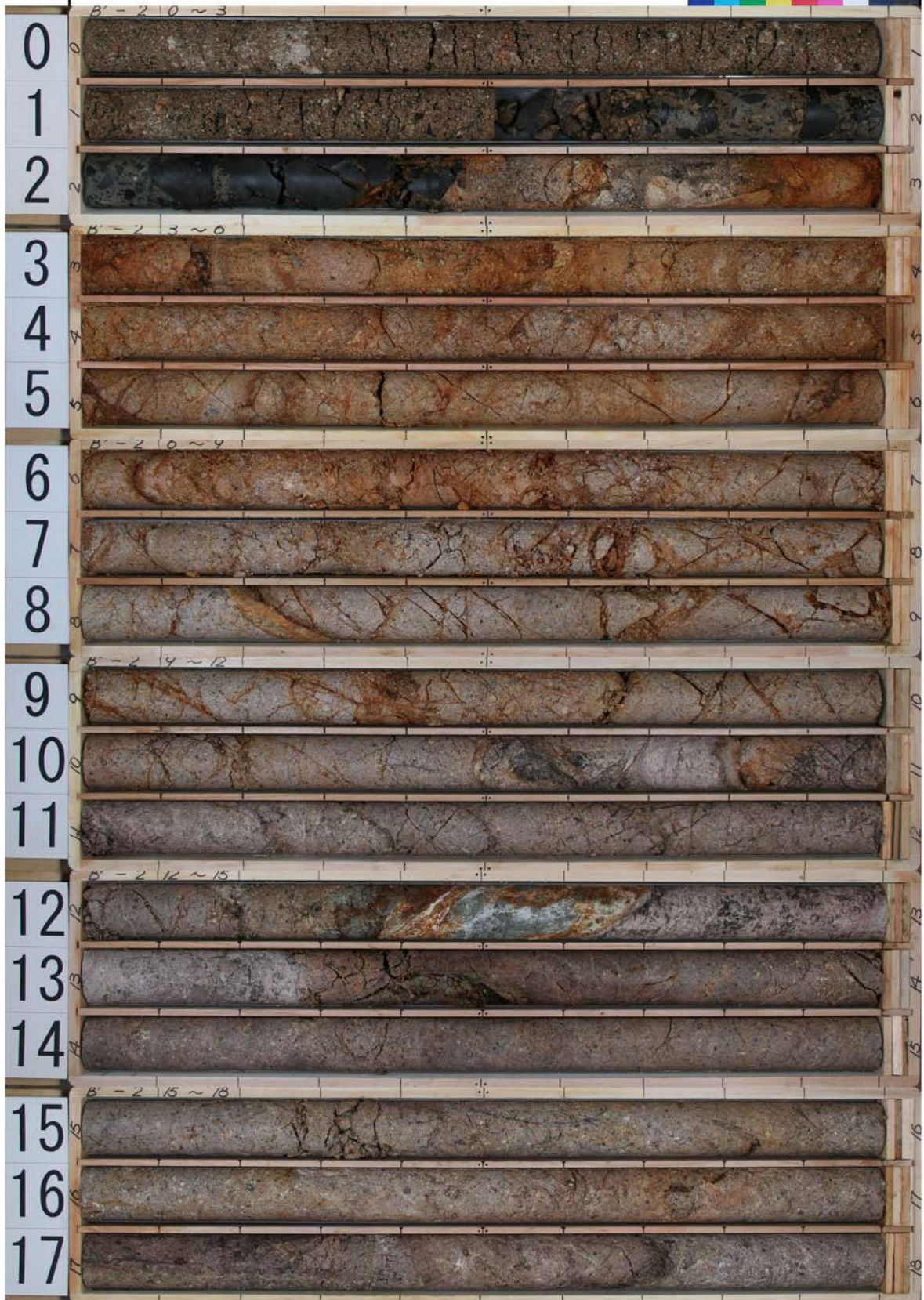


標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 (%) ← 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測定月日	標準貫入 試験			原 位 置 試 験 (孔内水平距離)	室 内 試 験	掘 進 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チューブ / ビット	給 圧 (kN MPa)	回 轉 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)						
													(N)	(	値																	
19	5.50	27.00		花崗斑岩	灰白	εg	vεg	dεg	δ	3										ダブルコアチューブ / ビット	2.0	100	0.1	泥水5	5							
20					にぶい黄橙	Dεg	vεg	cεg	δ	2	18.17m: 傾斜60°の割れ目に薄鉄鉱が付着する。 18.17m~19.80m: 褐色化が所々に見られる。 ●18.39~19.35m: 破砕部 18.39~18.52m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 上端不明瞭。下端60°で凹凸して湾曲する。網目状の粘土脈が分布。下部は連化変質を伴う。下端に幅2~4mmの灰色粘土を挟む。 18.52~18.67m: 砂質粘土状破砕部 (Hb) 下端45°で湾曲する。粘土化した岩片を多く含む。 18.65m: 灰白色粘土を挟む。傾斜50°。上下端とも波打ち膨縮する。幅5mm。 18.67~19.22m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 下端不明瞭。割れ目は消滅し、全体に粘土化進む。 19.22~19.35m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 下端45°で直線的。幅10~20mmの粘土脈を伴う。 ●20.87~22.43m: 破砕部 20.87~20.91m: 礫混じり粘土状破砕部 (Ho-2) 上端40°で凹凸する。幅0~15mm。灰白色。 20.91~20.92m: 粘土状破砕部 (Ho-1) 下端48°で直線的。幅10mm。明褐色。 20.92~21.08m: 礫質粘土状部 (Hb) 下端50°。下端に幅3mm以下の褐色粘土を挟む。 21.08~22.00m: 粘土混じり岩片状破砕部 (Hj) 上端50°。下端不明瞭。にぶい黄橙色。 22.00~22.43m: 粘土質礫状破砕部 (Hb) 下端65°で不明瞭。網目状に微細な割れ目が発達し、下端に膨縮する灰白色粘土を伴う。 22.43m: 傾斜65°。幅5~15mmの石英脈を伴う。 24.67~24.82m: 粘土質砂状を呈する。 25.43~26.55m: 割れ目が網目状に密集する。基質は粘土質砂状を呈する。											90	2/7				ダブルコアチューブ / タイカヤモトビット	2.0	100	0.1	泥水5	5
21					浅黄	vεg	dεg	ε	4																							
22					褐灰	Dεg	vεg	cεg	δ	3																						
23					にぶい黄橙	Dεg	vεg	cεg	δ	2																						
24					明褐灰	Dεg	vεg	cεg	δ	3																						
25					にぶい橙	Cεg	cεg	γ	2																							
26																																



孔番 B' -2 孔

深度 0.00m~18.00m





孔番 B' -2 孔

深度 18.00m ~ 27.00m

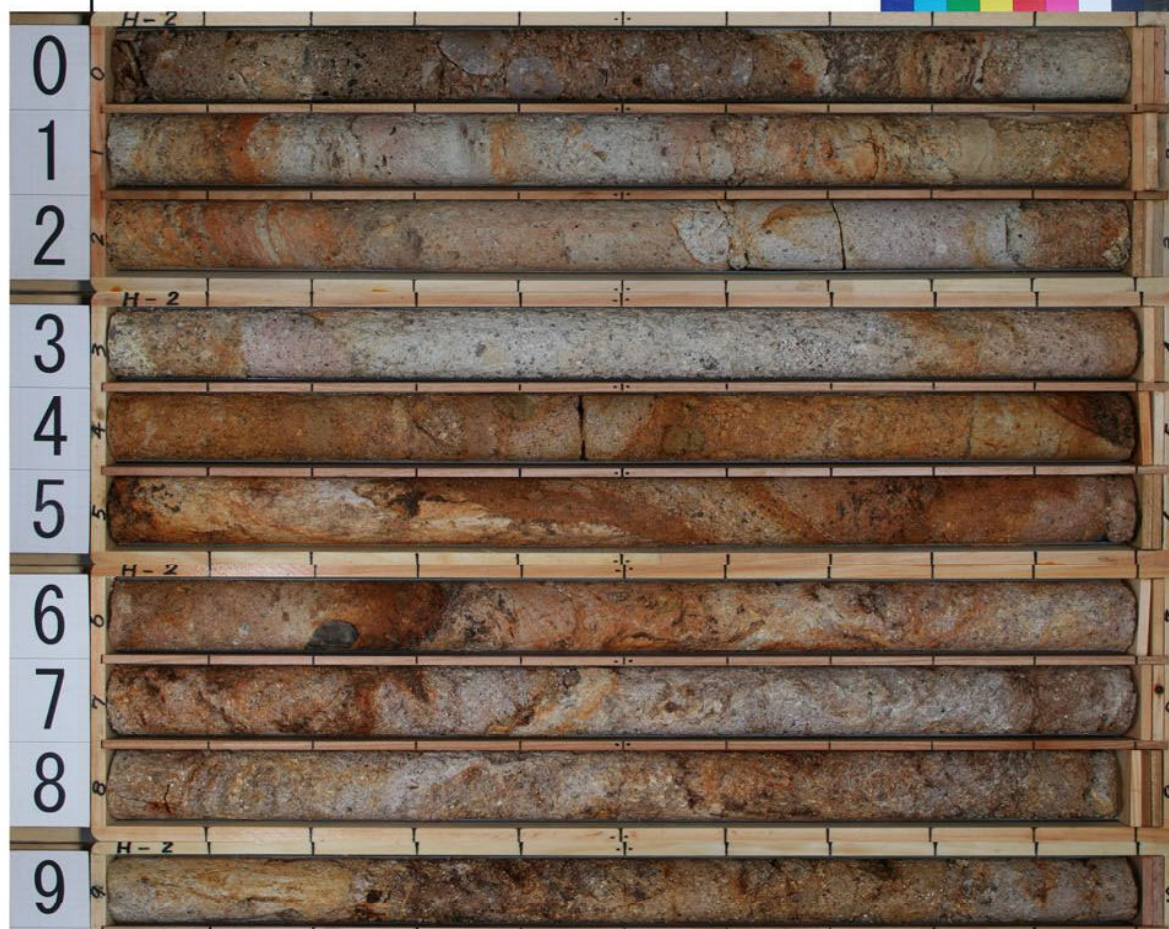


H24-H-2



孔番 H-2 孔

深度 0.00m ~ 10.00m



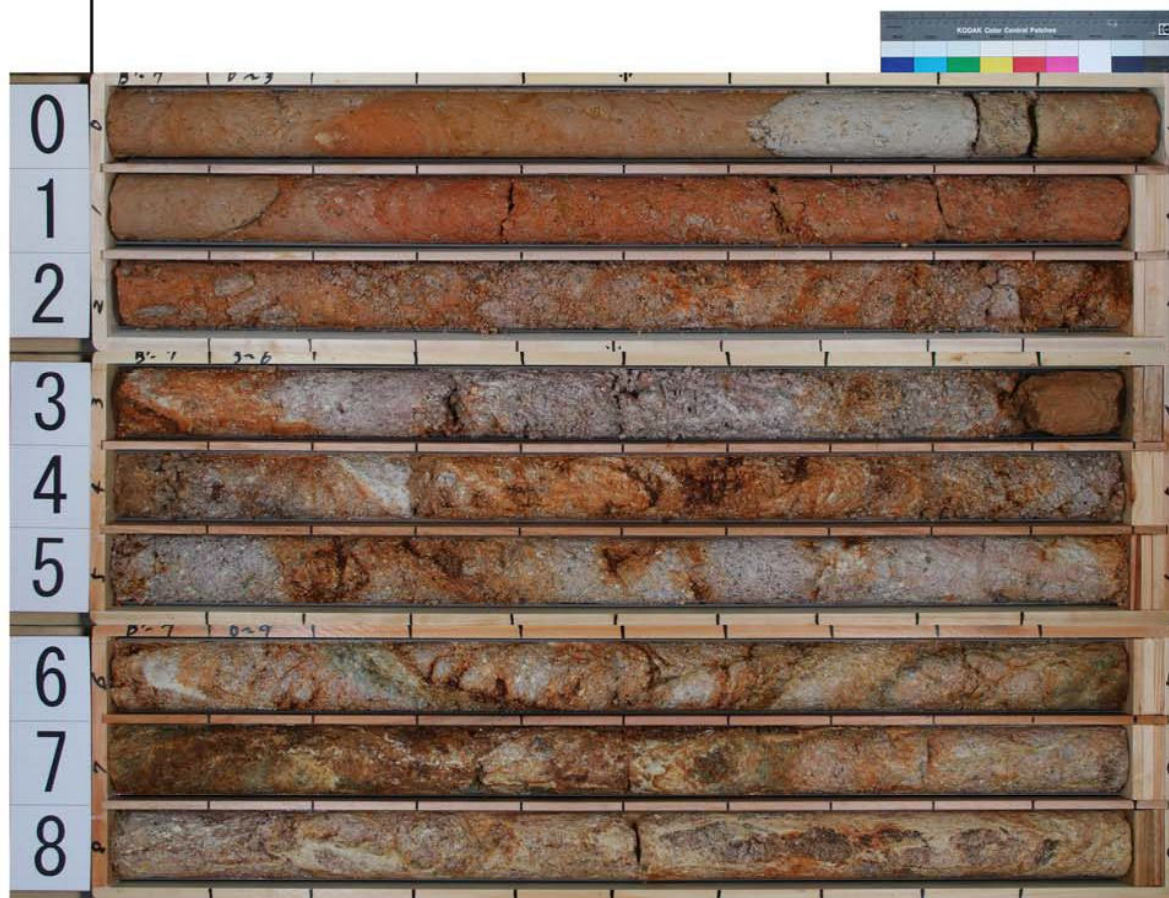
H24-B'-7





孔番 B' -7 孔

深度 0.00m ~ 9.00m



H24-B'-3



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色硬	コアラ形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定日	標準貫入 (N 値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) 孔壁保護	コアラチップ/ピット	給圧 (kN·MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
														(N 値~深度) 図															
														0	10	20	30	40											
				花崗斑岩	橘	cg	3			11.02~11.54m: 熱水変質部 所々傾斜5~40°の直線的な割れ目 が目立つ。 ●11.54~11.70m: 破砕部 11.54~11.59m: 粘土質砂状破砕部 (Hb) 上下端20'で上端は波打つ。粘土脈 が網目状に分布。 11.59~11.61m: 岩片混じり粘土状 破砕部 (Hc-2) 上端20'でほぼ直線的。下端20'で 波打りながら連続。 11.61~11.63m: 粘土質砂状破砕部 (Hb) 下端35'でほぼ直線的。粘土脈が網 目状に分布。 11.63~11.70m: 粘土混じり砂状破 砕部 (Hj) 下端40'で直線的。所々ほぼ直線的 な割れ目が目立つ。 11.70~13.69m: 熱水変質部 12.00~12.60m: 径20~70mmの岩片 が目立つ。 12.46~12.55m: 岩片混じり粘土状 を呈する。 ●15.80~17.39m: 破砕部 (G断層) 15.80~16.00m: 粘土混じり礫状破 砕部 (Hj) 上端30', 下端45'で、上端は不明 瞭。下端は直線的。 16.00m: 粘土状破砕部 (Hc-1) 傾斜55°, 幅4mm。ほぼ直線的。明 黄褐色。 16.00~16.05m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 上端55', 下端45'で上端は直線的。 下端は波打つ。幅29~35mm。 16.05~16.13: 粘土混じり礫状破砕 部 (Hj) 径5~10mmの岩片を含む。 16.13~16.16m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 上端30', 下端67'で湾曲する。幅3 0mm。 16.16~16.50m: 粘土混じり礫状破 砕部 (Hj) 下端不明。径5~10mmの粘土化した 岩片主体。 16.50~17.32m: コア欠如 17.32~17.39m: 砂質粘土状破砕部 (Hc-2) 境界面不明。 21.08m以降: 岩片状~短柱状コア を主体とする。	0 50 100	D'		1/17	80	99 ノケシング	ダブルコアチップ メタルクラウン	0.5	100	0.1	泥水11	0							
	8.21	16.50		花崗斑岩	明褐灰	Dg Vg	cg	2			CL'		1/21	70		ダブルコアチップ メタルクラウン	0.0	100	0.1	泥水10	10								
	7.63	17.32		花崗斑岩	明褐灰	Eg Vg	dg	3			D'			75		ダブルコアチップ メタルクラウン	0.0	100	0.1	泥水7	7								
				花崗斑岩	明褐灰	Dg Vg	cg	3			CL'			1/22	86		ダブルコアチップ メタルクラウン	0.5	110	0.1	泥水4	4							
				花崗斑岩	明褐灰	IVg	bg				CM'			60		ダブルコアチップ メタルクラウン	0.5	110	0.1	泥水6	6								
				花崗斑岩	橘	Cg	cg	2			CL'			1/23	45		ダブルコアチップ メタルクラウン	1.0	100	0.1	泥水13	13							
				花崗斑岩	橘	Vg	cg				CL'					ダブルコアチップ メタルクラウン	1.2	120	0.1	泥水13	13								
	2.20	25.00		花崗斑岩	明褐灰	Dg	cg	3			CL'			1/23	170		ダブルコアチップ メタルクラウン	1.5	100	0.1	泥水8	8							
				花崗斑岩	明褐灰	Eg	dg									ダブルコアチップ メタルクラウン	1.0	100	0.1	泥水6	6								



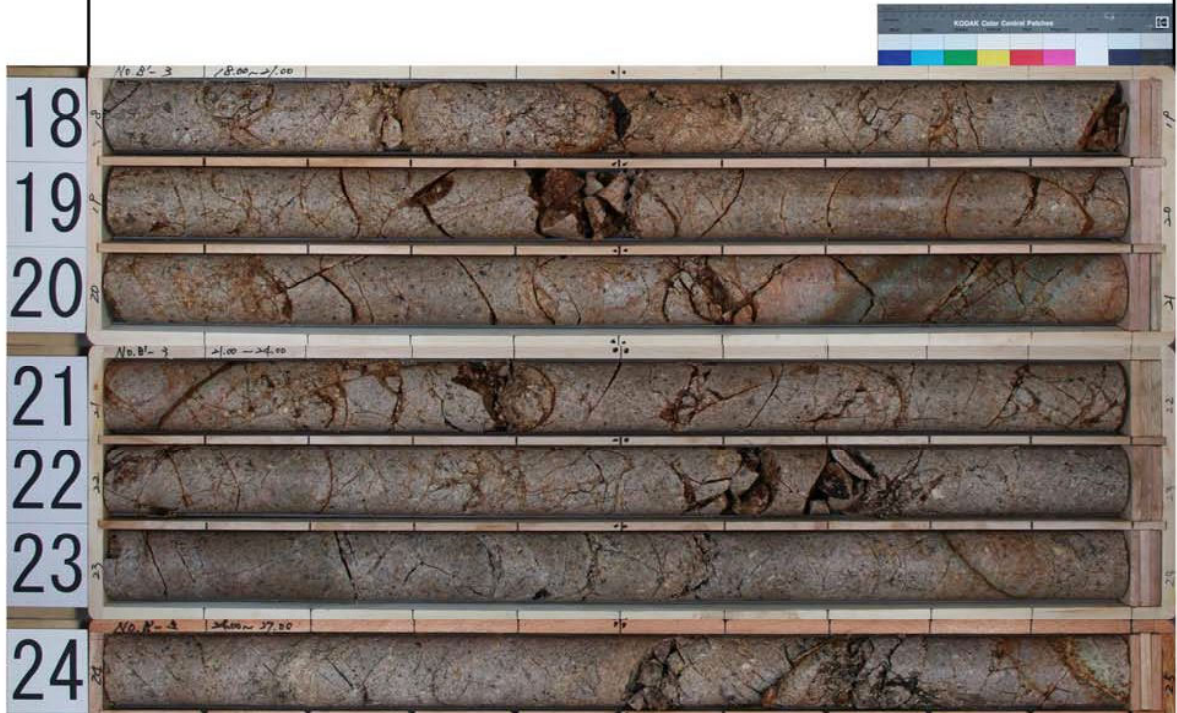
孔番 B' -3 孔

深度 0.00m ~ 18.00m



孔番 B' -3 孔

深度 18.00m ~ 25.00m



H24-H-6-1



### ボーリング柱状図

調査名 \_\_\_\_\_

ボーリングNo.								1
----------	--	--	--	--	--	--	--	---

事業・工事名 \_\_\_\_\_

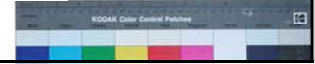
ボーリング名	H-6-1		調査位置	X:405.817, Y:1107.369		北緯	35° 45' 20.72"		
発注機関	日本原子力発電株式会社				調査期間	2013年3月8日 ~ 2013年3月11日		東経	136° 1' 3.48"
調査業者名				主任技師			現場代理人		
孔口標高	20.39 m	角上		方位	北 0°, 東 90°, 南 180°, 西 270°	地盤勾配	鉛直 0.0°, 水平 0.0°	試験機	ハンマー 落下用具
総掘削長	15.00 m	角下		方向		使用機種			ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記号	注記	コア採取率 (%)	岩級区分	最大コア長 (cm)	R	Q	D	L [%]	標準貫入 (N値~深度) 試験	原位置試験 (孔内水平観電)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)				
																														孔内水位 (m) / 測定月日	( N ) 値		
1											9.00mまでノンコア								0														
2																			10			3/8	100	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	2.0	100	0.1	泥水1					
3																			20														
4																			30														
5																			40														
6																			50														
7																																	
8																																	
9	14.03	9.00		褐							9.00~15.00m: 花崗斑岩 (Gp)								0														
10				灰白	Eg	ε	4				9.00~9.58m: 土砂状を呈する。粗い石英粒が目立つ。全体にMn <sup>2+</sup> 及び酸化鉄の付着が著しい。	(0)		100					10			3/9	86	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	2.0	100	0.1	泥水1					
11				褐	Dg	Vg	dg	δ	3		● 9.58~14.36m: 破砕部 (K断層)	(0)		100					20														
12				明褐	Eg	ε	4				9.58~9.59m: 砂混じり粘土状破砕部 (Hc-1)	(0)		100					30														
13				明褐	Dg	Vg	dg	δ	3		傾斜75°。含水多く軟質。粘土化がすみ置性的変形をする。明黄褐色を呈する。幅5~10mm。	(0)		100					40														
14	9.78	15.00		明褐	Eg	ε	4				9.59~10.50m: 硬質粘土状破砕部 (Hb)	(0)		100					50														
											上端75°。下端20°。いずれも直線的。灰白色を呈する。10.14~10.21m間にほぼ85°の角度で幅5~10mmの砂混じり粘土状破砕部が挟在する。Hc-1に相当し明黄褐色を呈する。せん断面はない。10.21mに傾斜85°のせん断面。	(0)		100								0			3/11	95	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	2.0	100	0.1	泥水1		
											10.50~13.59m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj)	(0)		100																			
											上端20°。下端不明瞭。径20~30mmの岩片主体の砂礫状を呈する。10.50mの割れ目を境に多少粘土化が弱くなるが大差はない。しかし、これ以降粘土化は弱くなり、マサットの岩盤に漸移する。明褐色~褐灰色を呈する。																						
											13.59~13.77m: 硬質粘土状破砕部 (Hb)																						
											上端不明瞭。下端不明瞭。明褐色を呈する。13.59~13.67m間は石英粒が多いが軟質な粘土で充填されている。13.72mに幅3mm程度の軟質粘土 (45°。明黄褐色) 挟み、その上下も強く粘土化している。																						
											13.77~14.36m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj)																						
											上端不明瞭。下端20°。明褐色を呈する。																						



孔番 H-6-1 孔

深度 9.00m ~ 15.00m



0~9mノンコア



H24-H-3



孔番 H-3 孔

深度 0.00m ~ 11.00m





H24-H-4



孔番 H-4 孔

深度 0.00m ~ 8.00m



H24-H-5



# ボーリング柱状図

調査名 \_\_\_\_\_

ボーリングNo.																						1
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

事業・工事名 \_\_\_\_\_

ボーリング名	H-5		調査位置	X:403.817 , Y:1106.919			北緯	35° 45' 20.67"
発注機関	日本原子力発電株式会社				調査期間	2013年2月19日～2013年2月20日		
調査業者名				主任技師		現代場人	コ鑑定者	
ボーリング責任者						ハンマー落下用具		
ボーリング機			エンジン			ポンプ		
孔口標高	22.34 m	角			方位			
総掘削長	8.00 m	度			地盤勾配			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬度	コア形状	割れ目状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値～深度) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
															( N値～深度 ) 図																								
1				砂礫	淡黄						0.00～3.46m: 砂礫(③層) 花崗斑岩のクサリ礫主体で最大径300mm以上。基質は細砂混じりシルト質砂。径30mm以下の石英片が点在。 ●0.24m: せん断面(K断面)。傾斜50°。 0.65m: マンガン脈。傾斜20°。幅2mm。																												
2				砂礫	明黄褐						1.34～1.48m: 軟弱なシルト質砂を挟む。砂は細砂主体。 2.00～2.25m: 不明瞭であるが水平に近い堆積構造を示す。下端にマンガン脈を伴う。 2.90m: 幅3mm程度でマンガンが濃集する。																												
3	18.88	3.46		砂礫	明黄褐																																		
4	18.06	4.28		砂礫	明黄褐																																		
5				花崗斑岩	橙	Eg	VIs	dg	ε	2	3.46～4.28m: 砂礫(②層) 花崗斑岩のクサリ礫主体で基質はシルト質砂。 3.48m: 傾斜10°。幅数mmのマンガン脈。 4.28m: 基盤岩との境界は不明瞭。																												
6				花崗斑岩																																			
7	14.34	8.00		花崗斑岩							4.28～8.00m: 花崗斑岩(Gp) 4.28～6.72m: 土砂状を呈するがわずかに岩組織を残す。所々、灰白色の粘土を挟む。 6.57m: 傾斜65°で、幅2～3mmの黄褐色粘土を挟む。 6.72～8.00m: 軟化著しく、土砂～岩片状を呈する。割れ目は不明瞭となる。																												

孔番 H-5 孔

深度 0.00m ~ 8.00m



H24-H-6

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.	1
----------	---

事業・工事名

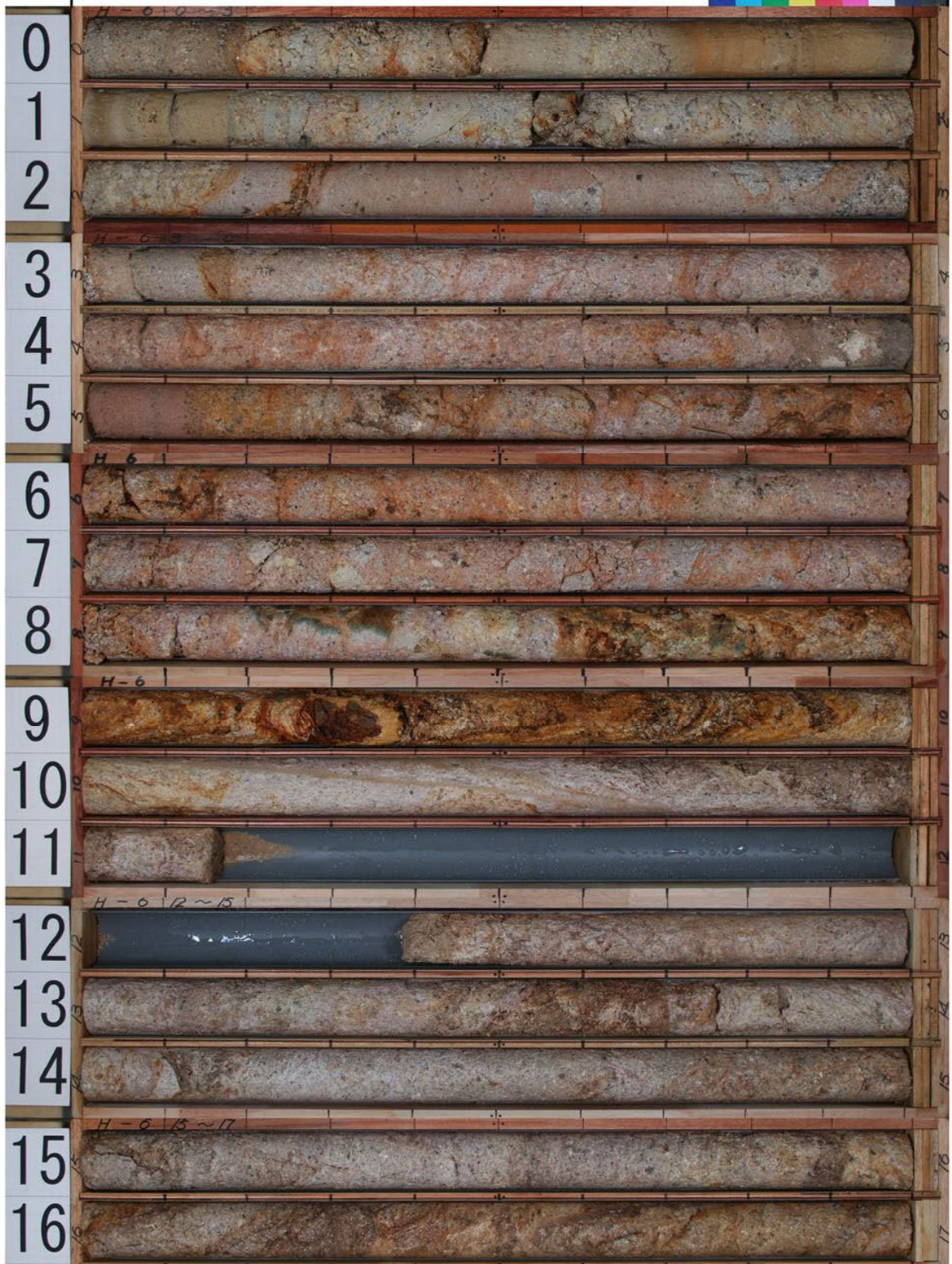
ボーリング名	H-6	調査位置	X:405.817, Y:1106.919	北緯	35° 45' 20.71"
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	2013年2月28日～2013年3月7日	東経	136° 1' 3.49"
調査業者名		主任技師		現代場人	
孔口標高	20.34 m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°
総掘削長	17.00 m	度	45.0°	地盤勾配	鉛直 0.0°
				使用機種	試験機 エンジン
					ハンマー 落下用具 ポンプ

標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	(標準貫入) 試験					室内試験 (孔内水平載荷)	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	送水圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水量 (L/分)																
												(N値～深度) 図	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)																						
19.85	0.69	砂	灰白	淡黄					0.00～2.27m: 礫混じり砂及び礫質砂 (③層)	0							2/28	60	86	2.0	100	0.1	1															
19.51	1.18	砂	灰白	淡黄					0.00～0.69m: 礫混じり砂 細～粗砂で不均質。細礫が混じる。 0.69～1.18m: 均質な細砂	0																												
18.73	2.27	礫質砂	灰白	淡黄					1.18～2.27m: 礫質砂 不均質な砂。礫は径10～30mm。最大径80mmの花崗斑岩岩片。礫率30～40%	0																												
18.09	3.18	礫混じり砂	灰白	淡黄					2.27～3.18m: 礫混じり砂 (②層) 細～中砂。礫は径2～20mmの石英、 花崗斑岩主体で、最大径100mm程度の 車角礫が点在。礫率5%程度。	0																												
			花崗斑岩	赤褐色				3	3.18～5.33m: 風化・変質により赤 色を帯びる。軟質な岩片状～土砂 状を呈する。割れ目は消滅し、一部 に灰赤色粘土脈を伴う。	0																												
			花崗斑岩	赤褐色				2	5.33～5.82m: 多くの割れ目に幅数 mmの灰赤色粘土を挟む。	0																												
			花崗斑岩	赤褐色				3	5.82～6.16m: 径10～30mmの軟質岩 片と細粒化した粗砂の土砂状。	0																												
			花崗斑岩	赤褐色				2	6.16～6.67m: ほぼ全ての割れ目が 開口し、黄褐色粘土を挟む。	0																												
15.26	7.18	砂礫	灰白	赤褐色				3	6.67～7.18m: 岩片まで劣化し、細 片～細粒化する。割れ目は全て消 滅し、やや軟質な岩片が残る。	0																												
15.03	7.51	砂礫	灰白	赤褐色				3	7.18～7.51m: 砂礫 径5～30mmの垂直礫と中～粗砂から なる。	0																												
			花崗斑岩	黄褐色				3	7.51～17.00m: 花崗斑岩 (Gp) 7.51～8.57m: 多くの割れ目が開口 し、細粒分が挟む。緑灰色に変 質した岩片が不規則にみられる。	0																												
			花崗斑岩	黄褐色				4	8.57～9.36m: 原岩組織は不明瞭。 一部に緑化劣化を受ける。一部に 緑灰色化した岩片がみられる。	0																												
12.46	11.15	砂	灰白	赤褐色				3	9.36～9.92m: 軟弱な粘土混じり砂 状。傾斜80°程度。幅10～15mm。黄色。 ●9.92～14.69m: 破砕部 (K断面) 9.92～10.04m: 粘土混じり礫状破 砕部 (Hj)	0																												
11.57	12.40	砂	灰白	赤褐色				3	上端76°、下端69°。上端、下端 とも比較的明瞭。上端は直線状を なし、下端側は湾曲する。明赤灰 色を呈する。幅4～5cm程度。 10.04～10.50m: 粘土・礫混じり砂 状破砕部 (Hb)	0																												
			花崗斑岩	灰白				3	上端69°、下端66°。灰赤色の細脈 がみられ、原岩の組織は不明瞭 である。一部に花崗斑岩岩片 (くさ り礫) がみられる。明赤灰色を呈 する。幅10cm程度。 10.50～10.50m: (細) 砂混じり粘 土状破砕部 (Hc-2)	0																												
			花崗斑岩	灰白				3	傾斜86°。ほぼ直線状に連続する。 にぶい黄色を呈する。幅6～7mm程 度。 10.50～10.66m: 礫質粘土状破砕部 (Hb)	0																												
			花崗斑岩	灰白				3	上端86°、下端72° (不明瞭)。 灰赤色の細粒分からなる細脈を伴 う。明赤灰色を呈する。幅3cm程度。 10.66～14.69m: 粘土混じり礫状破 砕部 (Hj)	0																												
			花崗斑岩	灰白				3	上端72° (不規則)、下端69° (ほ ぼ直線状をなす)。不規則に灰白 色の粘土脈を伴い、原岩の組織が 一部不明瞭となる。数本のせん断 面を伴う。灰黄褐色、淡黄褐色～灰 白色を呈する。幅1.30～1.40m程度 (推定)	0																												
			花崗斑岩	灰白				3	11.15～12.40m: コア流出 13.93～14.00m: せん断面 (粘土・ 礫混じり砂状破砕部 (Hb) 相当)	0																												
			花崗斑岩	灰白				3	上端55°、下端54°。せん断面と 調和的に灰白色粘土脈が連続する。 幅40mm程度。 14.12m: せん断面 傾斜41°で、シャープであるが湾 曲する。上端側に灰白色粘土に富 む部分が見られる。 14.67m: せん断面 傾斜69°。せん断面に幅2～3mmの 灰赤色粘土がみられる。上下端に は灰白色粘土が不規則にみられる。 14.69～17.00m: 原岩組織は残留す るが、一部粘土化し不明瞭となる。	0																												



孔番 H-6 孔

深度 0.00m ~ 17.00m



H27-F-5

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.																				1
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

事業・工事名

ボーリング名	F-5		調査位置	X : 390.450, Y : 1104.190		北緯	35° 45' 20.34"					
発注機関	日本原子力発電株式会社				調査期間	2015 年 5 月 20 日 ~ 2015 年 5 月 30 日		東経	136° 1' 3.07"			
調査業者名					主任技師	現代場人	コ鑑定者	ボーリング責任者				
孔口標高	19.84 m	角	180° 90° 0° 40.0°		方	北 0° 270° 西 180° 東 90° 南 151.5°		地盤勾配	鉛直 0° 0.0°	使用機種	ハンマー落下用具	
総掘削長	26.00 m	度	下 0°		向					試験機	ポンプ	
										エンジン		

標尺	高度	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	(標準貫入) 試験		室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給水圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
												(N値~深度) 図	(N 値)									
1		18.08	2.30	埋土	にぶい黄褐色				0.00~2.30m: 埋土である。						0	0/詰り					0	
2		17.42	3.16	埋土	にぶい黄褐色				2.30~7.64m: 上部は砂質土、下部は砂礫主体の第四系である。					5/22	257	100/ケーシング						
3		17.27	3.36	埋土	にぶい黄褐色				2.30~3.16m: 礫混じり砂である。													
4		17.10	3.58	埋土	にぶい黄褐色				3.00~3.16m: 埋土の崩落土砂である。													
5		16.98	3.76	砂	底白にぶい黄褐色				3.16~3.36m: シルトである。													
6		16.71	4.08	砂礫	明褐色				3.36~3.58m: 礫混じり砂である。													
7		15.09	6.20	砂礫	明褐色				3.58~3.76m: シルトである。													
8		14.88	6.48	砂礫	明褐色				3.76~4.08m: 砂である。													
9		14.58	6.87	砂礫	明褐色				4.08~6.20m: 砂礫である。													
10		14.39	7.12	砂礫	明褐色				6.20~6.48m: 砂質シルトである。													
11		13.99	7.64	砂礫	明褐色				6.48~6.87m: 礫混じり砂である。													
12				花崗斑岩	にぶい黄褐色				6.87~7.12m: 砂質シルトである。													
13				花崗斑岩	にぶい黄褐色				7.12~7.64m: 砂礫である。													
14				花崗斑岩	にぶい黄褐色				7.64~26.00m: 花崗斑岩である。													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コリア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
														(N 値 ~ 深度)	図																		
				花崗斑岩	灰黄	Vg	cg		3	●16.82~16.96m: 破砕部 破砕幅は13.4cmである。 16.82~16.95m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 浅黄色の軟質な礫状部からなる。上端境界の傾斜は45°である。 16.95~16.96m: 粘土状破砕部 (Hc-1) 明黄褐色を呈する。軟質な粘土状部からなり、幅は3~15mmである。上端境界の傾斜は20~70°、下端境界の傾斜は53°である。 ●18.71~18.96m: 破砕部 (D-1破砕部) 破砕幅は19.2cmである。 18.71~18.84m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) にぶい橙色のやや軟質な礫質粘土状を呈する。上端境界の傾斜は45°である。 18.84~18.85m: 礫混じり粘土状破砕部 (Hc-2) 灰黄褐色を呈する。軟質な粘土状部からなり、幅は10~20mmである。上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は40~70°である。 18.85~18.96m: 粘土混じり礫状破砕部 (H) 浅黄色の硬質な礫状部からなる。下端境界の傾斜は30°である。 18.96~20.57m: 大半が風化と変質で軟化が著しい。 20.57~26.00m: 中硬質の岩片状コアが主体となる。傾斜10~30°の割れ目が主体で、割れ目沿いに砂を挟む。 25.12~25.38m: 割れ目沿いに砂状を呈する。																							
16					灰黄褐色	Eg	Ivg	dg			3									5/26	98												
17					にぶい橙	Dg	Vg	cg	δ		4																						
18					浅黄	Eg	Vg	cg			3																						
19					灰黄褐色	Ivg	dg				4										5/27	111											
20					浅黄	Dg	Vg	cg	δ		3																						
21					明褐灰	Eg	Ivg	dg			3																						
22					にぶい橙	Dg	Vg	cg	δ		2																						
23					明褐灰	Eg	Ivg	dg			3																						
24						Dg	Vg	cg	δ		3										5/28	78											
25						Dg	Vg	cg	δ		3																						
		-0.08	26.00																														



孔番 : F-5

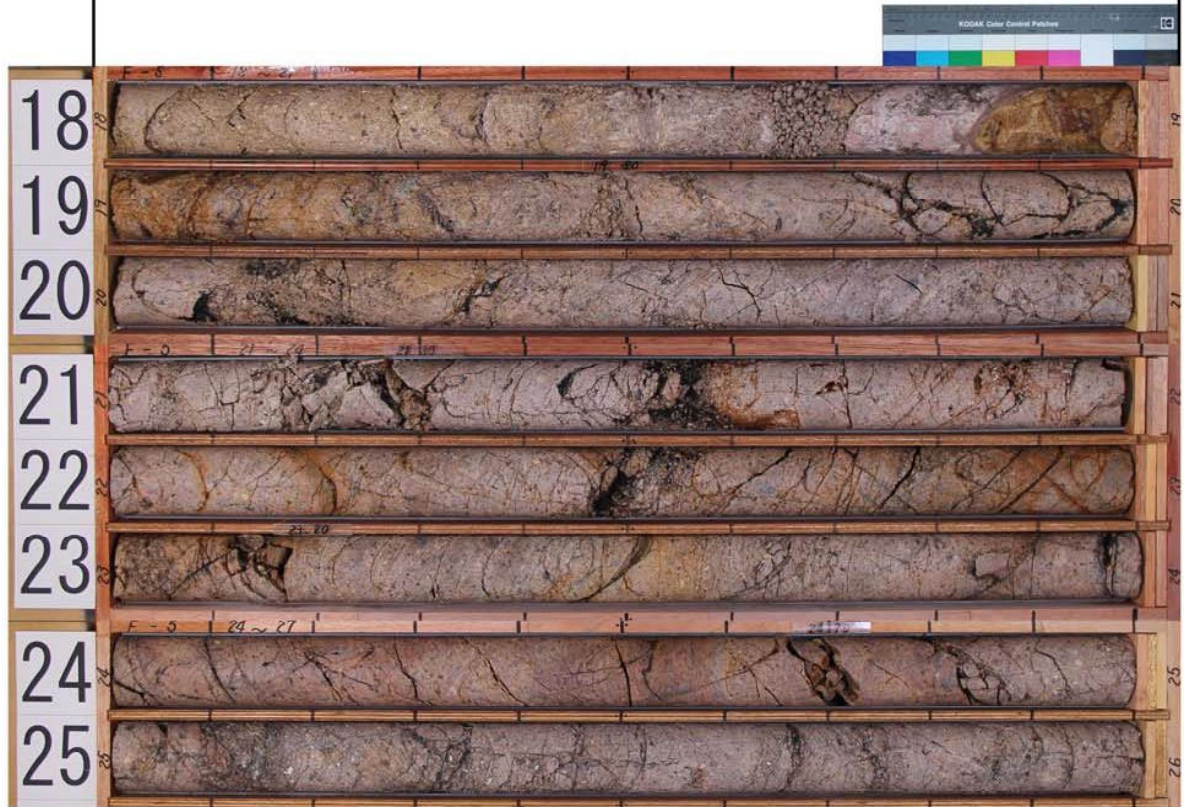
深度 0.00m~18.00m





孔番 : F-5

深度 18.00m ~ 26.00m



**H24-H-13**





孔番 H-13 孔

深度 0.00m ~ 18.00m



孔番 H-13 孔

深度 18.00m ~ 20.00m



H27-G-1

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.

1

事業・工事名

ボーリング名	G-1		調査位置	X393.771, Y: 1102.728		北緯	35° 45' 20.36"			
発注機関	日本原子力発電株式会社				調査期間	2015年 7月 14日 ~ 2015年 7月 30日		東経	136° 1' 3.21"	
調査業者名				主任技師	現 場 代 理 人	コ ン 定 ア 者	ボーリング責任者			
孔 口 標 高	19.61 m	角			地 盤 勾 配			使用 機 種	試 錐 機	ハンマー 落 下 用 具
総 掘 削 長	7.40 m	度						エンジン		ポンプ

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	変 質	記 事	コア採取率 (%)	岩 級 区 分	標準貫入 (N値~深度) 図		原 位 置 試 験 (孔内水平載荷)	室 内 試 験	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ン / ビ ッ ト	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
													( N 値 )	( 深 度 )																	
1	18.03	1.58		埋 土	に ぶ い 黄 褐 色					0.00~1.58m: 埋土である。砕石、礫混じり粗粒砂、コンクリートからなる。			0	10			100 / ケーシング														
2	17.30	2.31		砂 混 じ り シ ル ト 質 砂	灰 白 明 黄 色					1.58~3.78m: シルト混じり砂礫主体の単四系である。1.58~2.31m: 礫混じりシルト質砂である。径2~20mmの半クサリ礫化した花崗斑岩の角礫を10%含む細~中粒砂からなる。			0	10			7/28	150	ダブルコアチューン/ダイヤモンドビット	16.0	200	0.0	泥水1								
3	15.83	3.78		シ ル ト 混 じ り 砂						2.05~2.31m: 幅10mmの風化腐状部である。2.31~3.78m: シルト混じり砂礫である。			0	10			7/28	138													
4					浅 黄 橙		ε			径2~180mmの半クサリ礫化した花崗斑岩、アフライトからなり、礫率は40%である。下端側ほど礫は大型化する。基質は細~粗粒砂で全体に不均質である。			0	10			7/28	138													
5							δ			2.96~3.02m: シルト混じり砂からなる。			0	10			7/28	180													
6					灰 白					3.78~7.40m: 花崗斑岩である。風化で著しく軟化する。割れ目は不明瞭なものが多い。			0	10																	
7	12.21	7.40								5.80m以深は幅1~2mmの軟質な灰白色の粘土脈が分布する。 ●6.48~7.24m: 礫砕部 ●6.48~7.06m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 上端52°で波打って、下端58°で直線的に連続する。径5~10mmの粘土化した岩片と岩片間の脈状粘土化部からなる。色調は上端側が明褐色、6.70m以深が風化でにぶい黄橙色を呈する。 7.06~7.14m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 上端58°、下端72°でいずれも直線的に連続する。上端は幅1~2mmで明赤灰~褐色の軟質なほぼ直線的な粘土脈。全体に粘土化著しく径10mm前後の外形不明瞭な岩片を20~30%含む。灰白色を呈し、径5~20mmのまだら模様状に明赤灰色を含む。幅20~50mm。 7.14~7.17m: 粘土状破砕部 (Hc-1) 上端と72°で概ね直線的に連続。径0.5~1mmの石英粒を10%程度含む。にぶい黄橙色を呈し、上端の幅3~6mmは風化で淡褐色化したにぶい黄橙色を呈する。幅10~15mm。 7.17~7.24m: 粘土混じり礫状破砕部 (Hj) 上端72°で、下端70°でいずれも直線的に連続。下端はやや不明瞭。径3~5mm程度に細かく破砕された岩片と岩片間に薄く付着した粘土からなる。粘土との境界には2次せん断面と思われる細かい割れ目が多い。灰白色を呈する。幅15~20mm。																					



孔番 : G-1

深度 0.00m ~ 7.40m



H27-G-2

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.										1
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

事業・工事名

ボーリング名	G-2		調査位置	X : 393.771, Y : 1102.228				北緯	35° 45' 20.35"			
発注機関	日本原子力発電株式会社					調査期間	2015年7月25日 ~ 2015年7月27日			東経	136° 1' 3.22"	
調査業者名					主任技師	現代場人	コ鑑定者	ハンマー			ボーリング責任者	
孔口標高	19.40 m	角	180°		方	北 0°		地盤勾配	水平 0°		使用機種	エンジン
総掘削長	7.00 m	度	0°		向	270°		鉛直	90°			ポンプ

標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	標準貫入 試験				室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
													N 値	試験	位置	測定																
18.02	1.38	[柱状図]	埋土	褐灰					0.00~1.38m: 埋土である。砕石、雑混じり粗粒砂、コンクリートからなる。				0	0	0	0	7/25	180														
17.02	2.38			灰白					1.38~4.78m: シルト混じり砂礫主体の第四系である。1.38~2.38m: 雑混じりシルト質砂である。				100	10	10	10	10	7/27	136													
14.62	4.78			シルト混じり砂礫					径2~20mmの硬質な花崗斑岩。アプライトの角礫と径2~4mmの石英粒を確率10%含む細~中粒砂からなる。一部風化し明黄色化している。				100	0	0	0	0		86 / 泥水					10.0	200	0.2	1					
12.40	7.00			花崗斑岩					径2~120mmの半クサリ礫化した花崗斑岩。アプライトの歪角~角礫が主体となり、確率は40%である。基質は細~粗粒砂からなる。全体に不均質、淘汰不良である。締まる。				100	0	0	0	0															
									3.30~3.70m: 褐色化が顕著である。				100																			
									4.78~7.00m: 花崗斑岩である。軟質で割れ目は不明瞭なものが多い。				100																			
								●5.40~6.40m: 破砕部 5.40~6.07m: 粘土・砂混じり礫状破砕部 (Hj) 上端25°で大きく波打って連続。上端に幅2mmの灰赤色のやや硬質の粘土を伴う。下端は風化褐色化した65°割れ目。目でやや波打って連続。径10mm前後の粘土化~砂状化した岩片からなり岩片の外形は不明瞭なものが多い。明褐色を呈し、灰白色~灰赤色粘土部を斑点状~脈状に伴う。 5.49~5.51m: ほぼ水平のにぶい褐色の細粒部 (スライム) 6.07~6.15m: 礫質粘土状破砕部 (Hb) 上端65°で波打って、下端70°で直線的に連続。径5~10mmの粘土化した岩片を20~30%含む。礫の外形は不明瞭。6.07~6.10mまで灰白色、6.10~6.15mまで灰赤色を呈する。幅5cm。 6.15~6.17m: 粘土状破砕部 (Hc-1) 上下端とも70°で直線的に連続。径1mm以下の石英粒を10%以下で含む。灰白色を呈し、ややオリブ色を帯びる。上端の一部に幅1~3mmの赤灰色部を伴う。幅6~10mm。 6.17~6.40m: 砂混じり岩片状破砕部 (Hj) 上端70°で直線的に、下端58°で直線的に連続。径5mmの砂状化岩片からなり一部少量ながら粘土化を伴う。灰黄色を呈する。幅7cm。6.17~6.18mに灰赤色の粘土を挟む。 6.71~7.00m: 風化で土砂化する。																								

孔番 : G-2

深度 0.00m ~ 7.00m





H24-H-7-1



孔番 H-7-1 孔

深度 2.00m ~ 5.00m



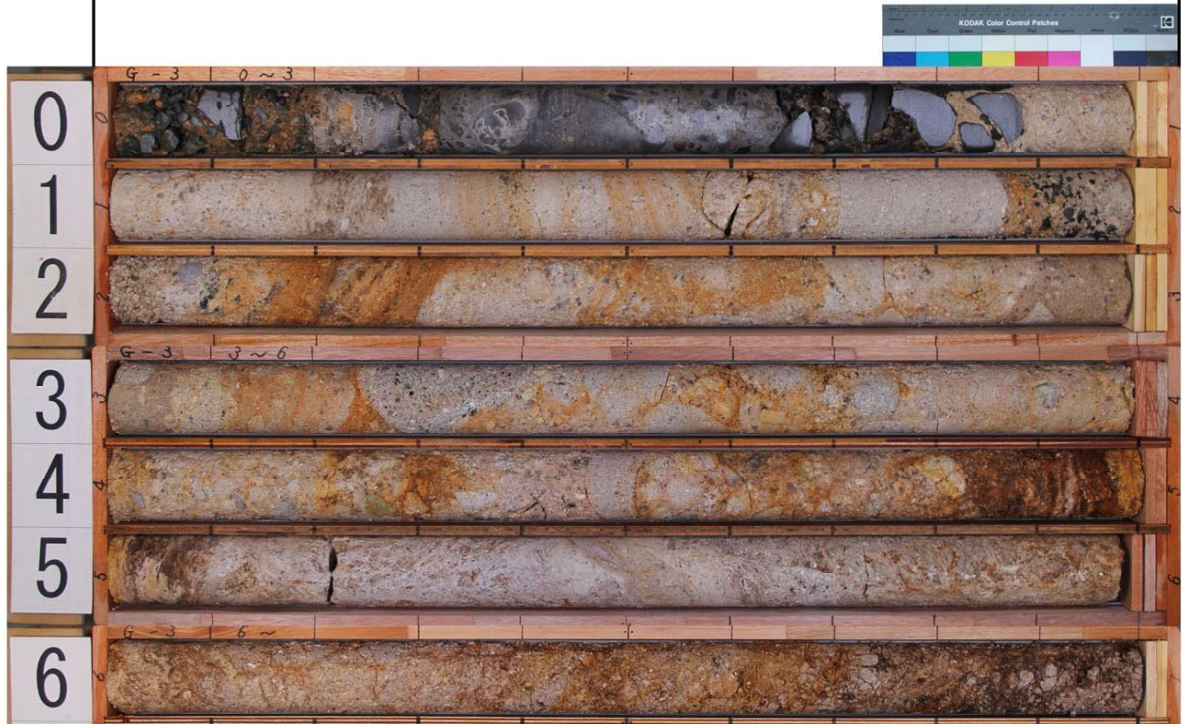
H27-G-3





孔番 : G-3

深度 0.00m ~ 7.00m



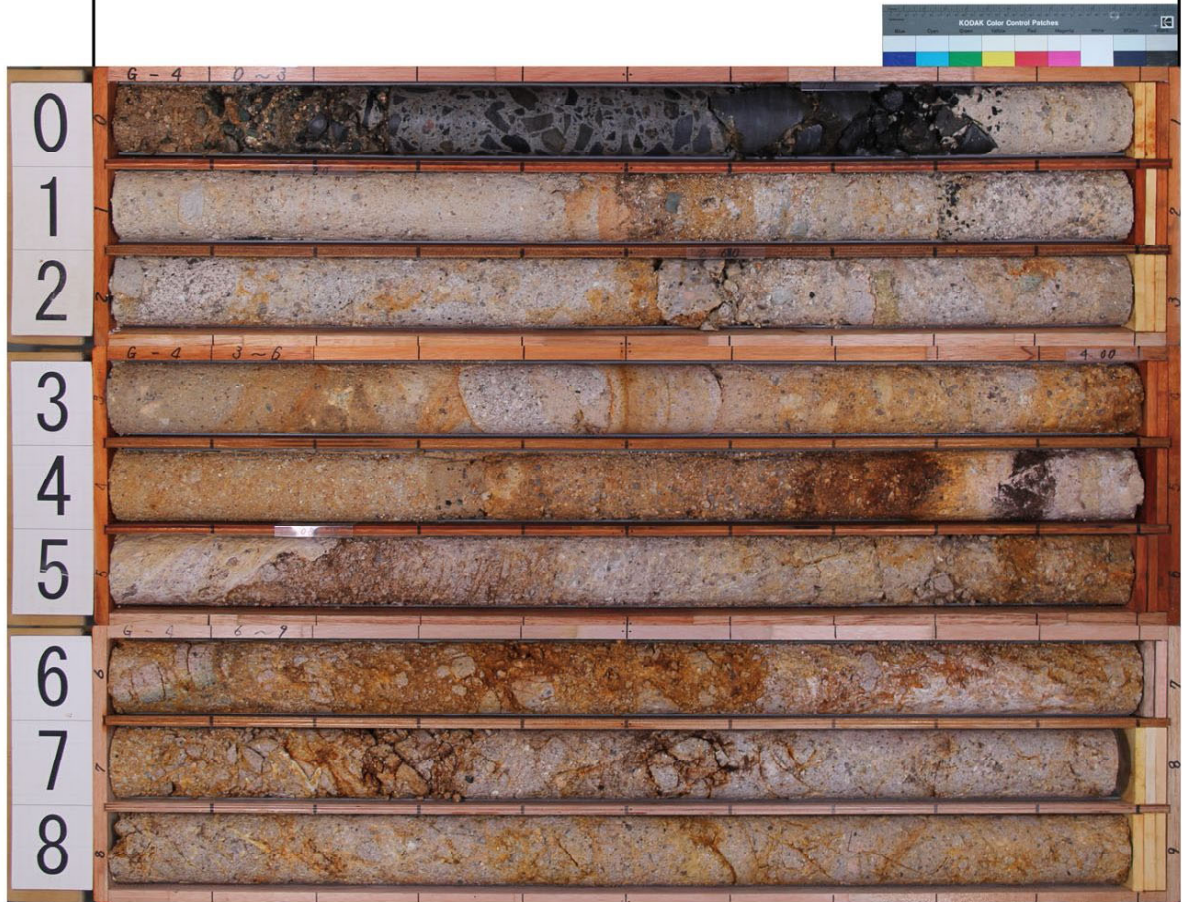
H27-G-4





孔番 : G-4

深度 0.00m ~ 9.00m



H24-H-9-1



孔番 H-9-1 孔

深度 0.00m ~ 12.00m



H27-G-5



ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. table with 10 columns and 1 row containing the value 1.

事業・工事名

Header information table containing borehole name (G-5), location (X: 393.771, Y: 1100.728), coordinates, issue date, investigation period, and equipment details.

Main borehole log table with columns for depth, lithology, soil strength, blow count, and other geotechnical parameters. It includes detailed stratigraphic descriptions and test results.

孔番 : G-5

深度 0.00m ~ 8.00m

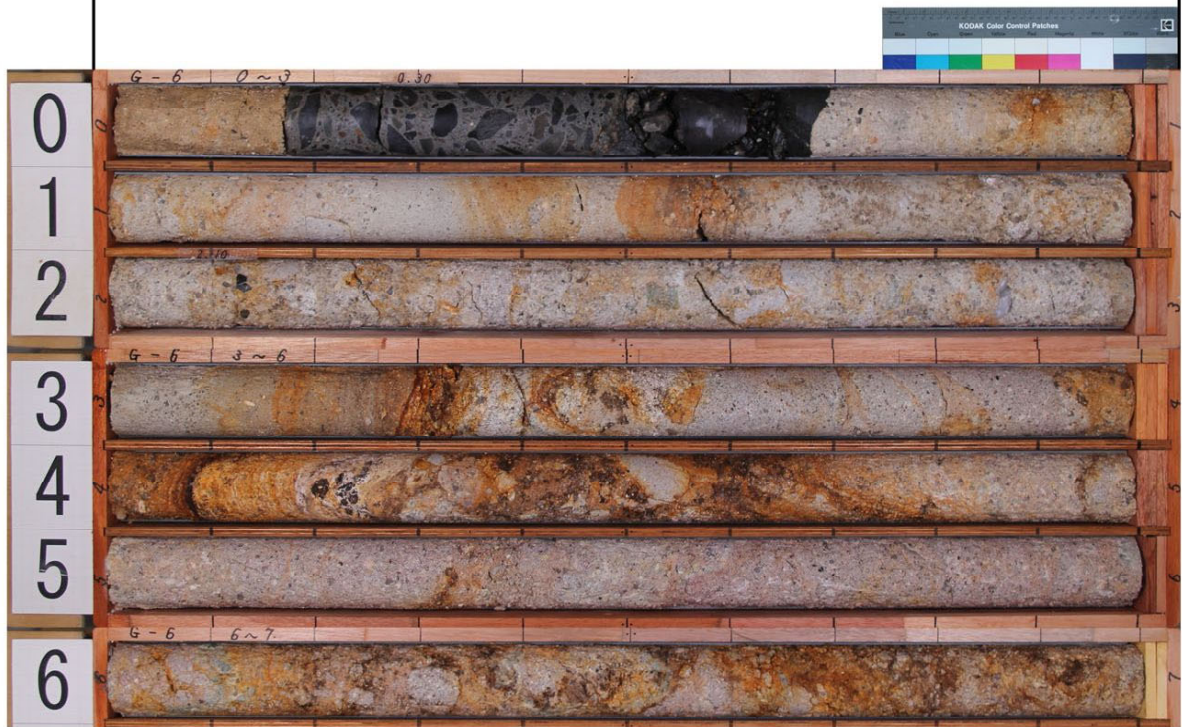


H27-G-6



孔番 : G-6

深度 0.00m ~ 7.00m





H24-H-14



孔番 H-14 孔

深度 0.00m ~ 12.00m



H27-G-7





孔番 : G-7

深度 0.00m ~ 7.00m



H27-G-8



孔番 : G-8

深度 0.00m ~ 7.00m



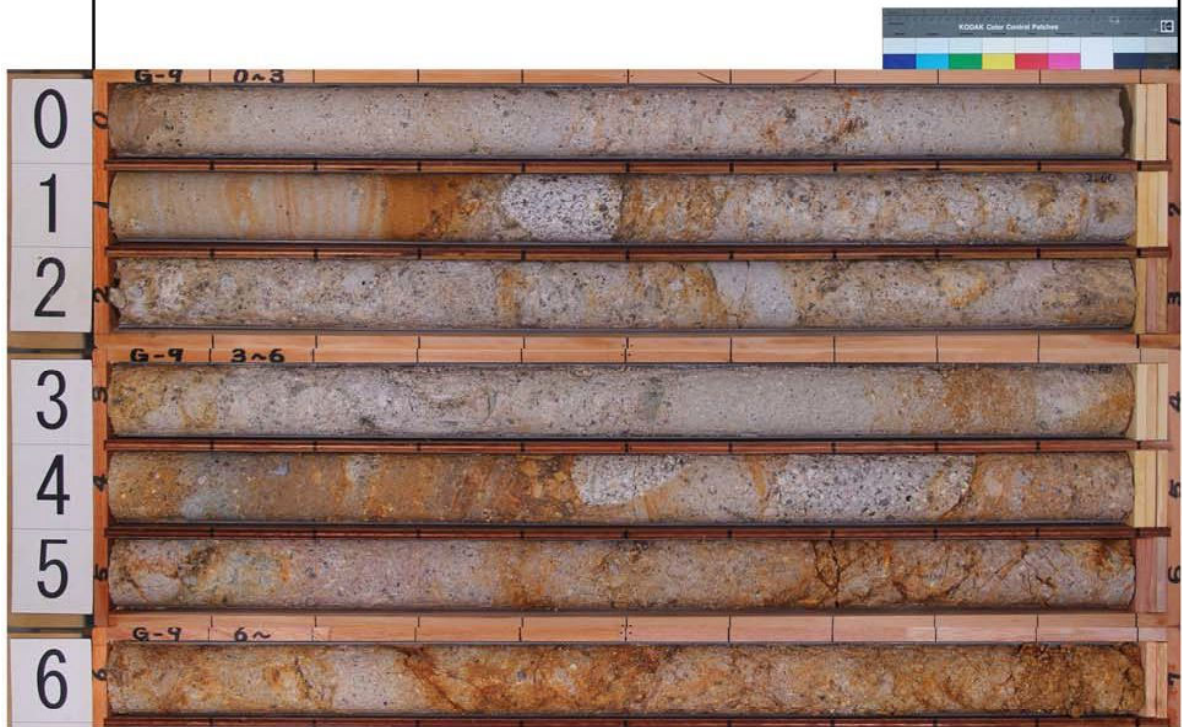
H27-G-9





孔番 : G-9

深度 0.00m ~ 7.00m



H27-G-10



孔番 : G-10

深度 0.00m ~ 8.00m

